

Access

航空機利用の場合

東京	1時間15分 全日空	米子 米子鬼太郎空港
----	---------------	---------------

米子鬼太郎空港から米子キャンパスへは
タクシーで約20分(米子空港→JR米子駅(連絡バス約30分))

高速バス利用の場合

東京	10時間 夜行	米子 JR米子駅前 バスターミナル
京都	4時間20分	
大阪	3時間40分	
広島	3時間30分	
福岡	7時間50分 夜行	

米子駅から米子キャンパスへは徒歩で約15分、
タクシーで約5分、米子市循環バスで約8分

自家用車利用の場合

- 大阪から 約3時間30分
中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子バイパス経由
- 岡山から 約2時間
中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子バイパス経由
- 松江から 約30分
国道9号経由

鉄道利用の場合

東京	3時間20分 JR新幹線のぞみ	岡山	2時間10分 JR特急やくも	米子 JR米子駅
新大阪	50分 JR新幹線のぞみ			
広島	40分 JR新幹線のぞみ			
博多	1時間50分 JR新幹線のぞみ			

米子駅から米子キャンパスへは徒歩で約15分、
タクシーで約5分、米子市循環バスで約8分



鳥取大学医学部

TOTTORI UNIVERSITY

Faculty of Medicine

医学科

生命科学科

保健学科 看護学専攻

保健学科 検査技術科学専攻



鳥取大学医学部

鳥取大学米子地区事務部学務課

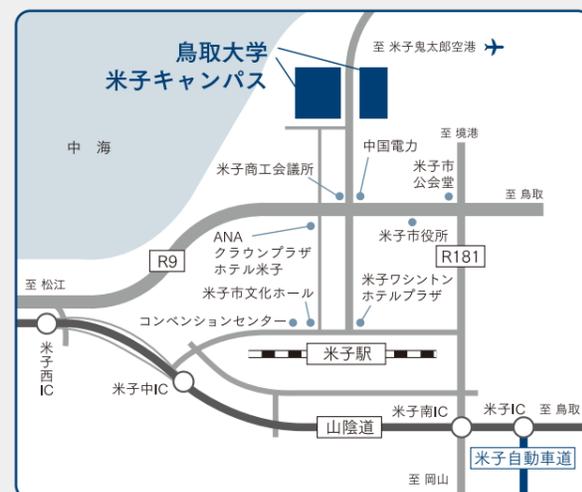
〒683-8503 鳥取県米子市西町86
TEL:0859-38-7096(学務課教育企画係)



鳥取大学医学部HP
<https://www.med.tottori-u.ac.jp/>



鳥取大学医学部附属病院HP
<http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/>



2021 GUIDE BOOK



山陰の地で学ぶ、 先端医療

医学部理念

鳥取大学医学部は、医学科、生命科学科、保健学科が互いに連携を取りながら、生命の尊厳を重んじるとともに創造性に富む医療人や生命科学者を養成する。

医学部の教育目標

鳥取大学医学部は山陰地方の歴史と伝統ある医学部として、21世紀にふさわしい医学、生命科学、保健学を修得し、これを実践できる人材を育成するための先進的な教育を行う。そして、限りない人間愛を涵養しながら、地域社会の課題を解決し、地域の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指す。

医学科 高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成する。

生命科学科 生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を養成する。

保健学科 看護学専攻は看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を、検査技術科学専攻は生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成する。

MESSAGE

鳥取大学医学部は、設立より75周年を迎え、この間、山陰の医学教育・研究・診療、そして人材育成の中核としての社会的使命を果たしてきました。現在、医学部には、医学科、生命科学科、保健学科の3学科と、大学院医学系研究科の医学専攻、医科学専攻、臨床心理学専攻の3専攻が設置されています。これまでに約5,900名の医師と約1,400名の看護師、約700名の臨床検査技師、約1000名の生命科学学士を輩出しており、卒業生は山陰のみならず、全国各地で医学・医療のリーダーとして活躍しています。また、多数の卒業生が母校で教鞭をとり、後進の育成を担当しています。

医学教育では、鳥取大学の特色である「ヒューマン・コミュニケーション」、「基礎手話」の授業等、人間性涵養教育による全人的医療人養成を行っており、国際的な医学教育基準の医学教育分野別評価（平成30年7月受審）の際にも高い評価を受け、認定されました。他者とのコミュニケーション能力を有し、患者への理解やいたわりの心を持ち、臨床的実践力を有し、他職種連携によるチーム医療のなかで中心的役割を果たすことができる、医師、看護師、臨床検査技師等の全人的医療人の養成は、本医学部の最も重要なミッションと考えています。

高度専門医療を担う鳥取大学医学部ですが、「地域医療」教育にも力をいれています。高度専門医療と地域医療が対立するのではなく、お互いに補完し合いながらやっていく必要があると考えています。「地域医療」教育では、「早期体験・ボランティア」、「地域医療体験」等の体験型授業に加え、山陰地域の病院・診療所での実際の診療に参加する地域医療臨床実習を行っております。鳥取県は高齢化が顕著に進んでおり、20～30年後の日本の現状を先取りしていると言っても過言ではありません。中山間地の自治体病院に設置したサテライトセンターでの医学生、看護学生との協働実習や、在宅マインドを醸成するため住民の自宅に泊まりこんで地域の課題を把握するなど、将来の日本の地域医療に関しての先進的な取り組みを模索しています。さらに、アメリカ、イギリス、カナダ、フィリピン、ロシア等、海外での臨床実習、研修プログラムも行われています。

医学科、生命科学科、保健学科は、それぞれに特徴的な教育、先進的な研究を行っていますが、それらの教育力や研究力を融合してさらに発展させることが必要です。そのため、学科の枠を

越えた合同講義、研究室配属等の教育を行い、医学部全体での研究体制、また学部を越えた研究体制（医工農連携研究）の構築にも積極的に取り組んでいます。令和2年には、大学院の改組として、生命科学専攻、保健学専攻、機能再生医科学専攻が統合した医科学専攻が開設されました。他にない人材育成に取り組んでいく予定です。

診療、研究面においては、低侵襲ロボット手術（鳥取大学医学部附属病院低侵襲外科センター）や人工染色体・幹細胞操作技術の医療応用技術（鳥取大学染色体工学研究センター）等を始めとする世界的な診療、研究の実績があります。このような、先端的で特色ある医療、研究を土台にして、さらに再生医療、ゲノム医療等の最新の医療技術の開発をすすめています。それらを担う人材、臨床研究者及び生命科学・基礎医学研究者の養成を積極的に推進し、臨床や産業界との橋渡しができる人材の育成に力を入れています。また、少子高齢化の先進地である山陰の地の利を生かし、子どもの健康と環境、生活習慣病、介護、認知症に関する研究も活発に行われています。例えば、10万人規模の大規模出生コホート研究「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」（環境省）の研究ユニットセンターとして鳥取大学医学部が中国地方で唯一選定され、ご両親と子どもの健康に関する環境調査・研究を精力的に行っています。

鳥取大学医学部は、今後とも、地域社会のみならず国際的に貢献できる全人的医療人、研究者の養成を目指していきます。医学・医療、生命科学に情熱を持っておられる皆さんの入学を心待ちにしております。



医学部長
黒沢 洋一
Youichi Kurozawa

CONTENTS

02 医学部理念	04 医学科	20 生命科学科	28 保健学科	36 キャンパスライフ
02 医学部の教育目標	学科長メッセージ 基本方針 学科の特色 カリキュラム 在学生の声 卒業後の進路 医師国家試験合格状況 卒業生の声 教育・研究	学科長メッセージ 基本方針 学科の特色 カリキュラム 在学生の声 卒業生・修士生の進路 Q&A 卒業生の声 教育・研究	学科長メッセージ／基本方針 30 看護学専攻 専攻主任メッセージ 専攻の特色／カリキュラム 卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声 32 検査技術科学専攻 専攻主任メッセージ 実習の様子／カリキュラム 卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声 34 教育・研究	38 附属病院 39 入試情報 40 アクセス



医療の今を支え、新たな医療を切り開く 医師の養成を目指す

MESSAGE

医学科長 中村 廣繁

Hiroshige Nakamura

鳥取大学医学部医学科は2020年に75周年を迎えました。長い歴史を積み重ねて、これまで山陰そして全国へ、数多くの医療の担い手を輩出してきた伝統があります。この恵まれた環境の中でこれから皆さんが学ぶ医学はすべてが新鮮で、驚き、喜び、悲しみなど、いろいろな感情が湧きあがります。五感を研ぎ澄まして、たくさんの感動を味わい、この米子の地で医学に最も大切な人間力を磨いて欲しいと思います。医学には様々な分野があり、皆さんがどの道に進もうと、活躍の舞台は自分の一生をかけるに

足る十分な魅力に溢れています。私たち鳥取大学医学部医学科は地域の特性を理解して、卓越したコミュニケーション能力を身につけ、国際感覚にも優れた医師を養成することを使命としています。自分が好んで選んだこの道ですので、どんな困難でも乗り越えられるはず。自分の可能性を信じ、仲間を大切に、何事にも積極的にチャレンジしましょう。皆さんの母校は、立派な医師になるための礎である大切な時間を、全力で支援します。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部医学科では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部医学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士(医学)の学位を授与します。

1. 医師に求められる基本的な知識、技能、態度を修得し、それを生涯にわたって維持向上させる姿勢を有している。
2. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会に対する自身の役割を認識し、患者中心の立場に立った医療を実践する能力を身につけている。
3. 論理的思考力、高度な判断力、コミュニケーション能力を身につけ、他者と協働して医療・研究を行う能力を有している。
4. 常に知的探究心と創造性を持ち、最新の医学的知識を身につけ、国際的な視点で物事を考える能力を有している。
5. 地域や地域で暮らす人々を愛する心を持ち、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献する能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育プログラムを導入し、到達目標を明確にし、卒業時までに医師あるいは研究医になるために必要な知識、技能、態度を身につけられるようなカリキュラムを組むことを基本的な方針としています。
2. 人間力を高め、幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
3. 学問に対する興味を深め、学問・研究が社会に貢献している実状を理解させる教育を実践します。
4. 創造力豊かな医療人を育成するためイノベーション教育を実施します。
5. 生命倫理、利益相反、危機管理、環境問題等の社会的に関心の高い学問領域を重視した教育を実施します。
6. 人体および人体標本に対する敬意や倫理に関する教育、守秘義務に関する教育を実施します。
7. 情報社会において安全かつ有効にネットワークを活用できるようにするため情報リテラシー教育を実施します。
8. コミュニケーションの大切さを実感させる教育を実施します。手話をコミュニケーション方法として取り入れるために手話教育に力を入れます。
9. 研究体験、先端医学講義、及び英語論文抄読などにより、リサーチマインドを涵養します。
10. 診療英会話などの実践的英語能力の向上を目指します。海外の学術交流協定校との間で臨床実習体験などの交流を行います。
11. 全人的医療人育成のため、低学年から早期医療体験を通じて、医療従事者としての動機付けを行い、臨床講義終了後に地域医療体験で地域に密着した医療を学ぶとともに地域の保健、福祉、介護の実践と多職種連携の重要性を理解する教育を実施します。
12. グローバルスタンダードを視野に入れた診療参加型臨床実習を実施します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 目標とする学修成果を達成できるように、知識、技能、態度について、適切な評価方法を用いて厳格に評価するとともに、学生の学修成果達成度を可視化することに努めます。
2. 学修成果をモニターして教育課程の効果と適切性を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

鳥取大学医学部医学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 医学に関心があり、目標に向かって継続的に努力できる人
2. 医学を学ぶために必要な基礎学力・教養をもつ人
3. 問題を解決するための柔軟な思考力及び豊かな表現力をもつ人
4. 思いやり、責任感及び協調性のある健全な考え方もつ人
5. 医学・医療と保健・福祉の発展に貢献したいと考えている人
6. 地域・国際医療に関心をもち、貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、様々な能力と関連付けて明示し、多面的かつ総合的な評価による多様な入試の機会を設けます。

学科の特色

1. コミュニケーション・イノベーション教育を バランスよく配分した魅力的なカリキュラム

モデル・コア・カリキュラム(全国統一の精選された基本的内容)と本学のミッションである特徴的な教育(コミュニケーション・イノベーション教育)をバランスよく配分した魅力的なカリキュラムを皆さんに提供します。特に、本学独自の理念に基づくヒューマンコミュニケーション、手話教育をはじめ、基礎医学体験、小グループに分かれて行うチュートリアル教育など、学生が自主的に選択できる多彩なメニューは魅力に溢れています。基礎的な知識・技術を修得し終えると、CBTとOSCEという全国共用試験を受験します。一定レベルに到達したと判断されると、臨床実習への参加が許可され、皆さんの学修の舞台は臨床の現場へと進んでいきます。2018年度から開始した新カリキュラムではこの臨床実習の期間を66週に延長し、近隣の関連医療機関と連携して、学生も医療スタッフの一員として加わる診療参加型実習を実践しています。

近年、医学教育に対する社会のニーズは多様化し、多彩な人材の輩出が求められています。そのため、私たちの教育方針は基礎知識に留まらず、自ら課題を探究し、解決策を提案できるアクティブラーニングへと転換を図っています。皆さんのやる気一つで、研究室はいつでも門戸を開放し、自主的研究に取り組む機会を設けています。

2018年7月には、これら一連の私たちの教育内容が国際基準に適合しているかどうかについて、日本医学教育評価機構による分野別評価を受審し、7年間の認定を受けました。医師免許取得後、本学医学科の卒業生は、医療、教育・研究、行政面の多彩な課題に対応すべく、山陰・日本国内・海外のさまざまな地域で活躍しています。

2. 全世界に広がる提携大学への 留学研修が可能

鳥取大学では、夏季休業を利用してカナダの大学等で短期研修を行う制度があり、グローバルな視点を有する医師を育成するため、医学部同窓会も積極的にこれを支援しています。また、海外交流協定締結校や教員の海外共同研究を利用した研修などがこれまで行われてきました。

2008(平成20)年にはアメリカのパーモント大学医学部と学術交流協定を締結し、医学科4、5年次学生が毎年パーモント大学で開催される夏期および春期臨床研修プログラムに参加しているほか、パーモント大学からも数名の学生や教員が鳥取大学での研修に参加しています。また、韓国の延世大学の学生研修については、受け入れが継続し、2009(平成21)年には部局間の交流協定に発展しています。さらに、2013年からフィリピン共和国の保健省関連病院(国立サンラサロ病院)で、2016年からロシアの太平洋国立医科大学、極東連邦大学で、6年次学生の臨床研修を開始しています。2017年からは、おもに3-6年次学生から希望者を募り、イギリスのケンブリッジ大学の家庭医療部門研修も実施しています。



1. 外来での臨床実習 2. 低侵襲外科センター手術室 3. エコー実習

Curriculum

※1~3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
行動科学	基礎薬理学	医科栄養学	法医学	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ
基礎医学体験	基礎消化器学	病理学各論	社会医学チュートリアル・実習		
最新診断・治療学	基礎循環器学	疫学と予防医学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学		
医学史	基礎呼吸器学	研究室配属	皮膚科学		
実験動物学	基礎泌尿器学、基礎生殖器学	メディカルコミュニケーション	産科学		
医用統計学	基礎感覚器学	臨床遺伝学	臨床成長・発達学		
基礎地域医療学	基礎神経学	総合診療-症候学-	臨床感染症学		
免疫生物学	基礎内分泌・代謝学、基礎血液学	臨床内分泌・代謝学	臨床腫瘍学		
遺伝生化学	解剖学実習	診断学	免疫・アレルギー		
発生医学	基礎感染症学・実習	放射線診断学	麻酔科学		
細胞組織学	基礎医学実習	治療学	救急医学		
細胞生理学	病理学総論	臨床消化器学	老年医学		
細胞生化学	社会環境医学	臨床循環器学	医療情報学		
基礎運動器学	基礎医学特論Ⅰ、基礎医学特論Ⅱ	臨床呼吸器学	地域医療体験		
	画像診断入門	臨床運動器学	PBLチュートリアル		
		臨床神経学	臨床地域医療学		
		眼科学	臨床医学特論		
		臨床泌尿器学	臨床実習入門		
		臨床生殖器学	臨床実習Ⅰ		
		臨床血液学			
		神経精神医学			

在学生の 声



進藤 祐輔 さん
医学科5年(大阪府出身)

皆さんは、医学科の学生生活についてどのようなイメージをお持ちでしょうか?もしかしら、その中にはこんなイメージもあるかもしれません。
—勉強や実習ばかりでやりたいことができない—
ですが、これは大きな間違いです。たしかに、医学生にとって勉強や実習はとても大切で、多くの時間を費やすべきものです。しかし、それと同時に、ほとんどの医学生が部活やサークル、趣味、アルバイトも楽しんでいます。僕も男子バスケットボール部に所属し、楽しく活動しています。
鳥取大学には勉強をする施設が整っています。とくに、医療手話や地域医療の授業などは鳥取大学ならではのプログラムで、

医学の知識をより豊かにすることができます。そして勉強に励む自分の周りには同じ夢を持つ仲間たちがいて、ときに助け合いながら日々医学を学んでいます。
このような鳥取大学の環境の中で、部活と両立しながら勉強ができていますので、この大学に入ってよかったと強く感じています。
学生生活をどのように過ごすかは自由です。しかし、勉強と同時に、部活やサークルと色々経験することが大切であること、そしてそれが可能であるということを感じておいてほしいです。皆さんも色々な経験をして、それぞれの理想の学生生活を是非手に入れてほしいと思います。

私の週間 スケジュール (4年次前期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限		臨床感覚器学	神経精神医学	臨床泌尿器学	臨床成長・発達学
2時限		臨床感染症学	臨床感覚器学	臨床生殖器学	神経精神医学
3時限	社会医学チュートリアル・実習	臨床泌尿器学	臨床成長・発達学	臨床成長・発達学	臨床感染症学
4時限	社会医学チュートリアル・実習	臨床神経学	臨床神経学	臨床運動器学	臨床運動器学
5時限	時々補講	時々補講	時々補講	時々補講	時々補講
放課後	部活			部活	アルバイト

卒業後の進路

(主な卒業臨床研修先：平成27～令和元年度)

東北

岩手県立宮古病院

関東

東京女子医科大学病院
 東京都立駒込病院
 順天堂大学医学部附属病院
 東京大学医学部附属病院
 日本医科大学付属病院
 東京北医療センター
 横浜市立大学附属病院
 横須賀共済病院
 亀田総合病院
 東京医科歯科大学医学部附属病院
 杏林大学医学部付属病院
 筑波大学附属病院
 自治医科大学附属さいたま医療センター
 獨協医科大学埼玉医療センター
 埼玉病院
 川口総合病院
 千葉中央メディカルセンター
 千葉県がんセンター

中部

名古屋大学医学部附属病院
 名古屋市立大学病院
 トヨタ記念病院
 名古屋医療センター
 豊橋市民病院
 刈谷豊田総合病院
 一宮西病院
 静岡県立総合病院
 沼津市立病院
 伊那中央病院
 諏訪中央病院
 浅間南麓こもろ医療センター
 高山赤十字病院
 岐阜県総合医療センター
 長野赤十字病院
 新潟病院
 福井県立病院
 金沢大学附属病院
 金沢医療センター

近畿

公立豊岡病院組合立豊岡病院
 公立八鹿病院
 公立宍粟総合病院
 神戸大学医学部附属病院
 神戸赤十字病院
 兵庫医科大学病院
 兵庫県立淡路医療センター
 姫路聖マリア病院
 大阪大学医学部附属病院
 大阪市立総合医療センター
 大阪警察病院
 住友病院
 大阪労災病院
 関西医科大学附属病院
 ペルランド総合病院
 奈良県立医科大学附属病院
 滋賀医科大学医学部附属病院
 滋賀県立総合病院
 草津総合病院
 京都大学医学部附属病院
 京都府立医科大学附属病院
 京都第一赤十字病院
 和歌山県立医科大学附属病院

山陰

鳥取大学医学部附属病院
 鳥取県立厚生病院
 山陰労災病院
 松江赤十字病院
 米子医療センター
 松江市立病院
 鳥取県立中央病院
 鳥根県立中央病院
 鳥取市立病院
 益田赤十字病院
 鳥取生協病院
 浜田医療センター

四国

三豊総合病院
 愛媛生協病院
 済生会今治病院
 徳島大学病院

九州・沖縄

九州大学病院
 福岡徳洲会病院
 長崎大学病院
 浦添総合病院
 沖縄県立中部病院
 沖縄県立南部医療センター・
 こども医療センター

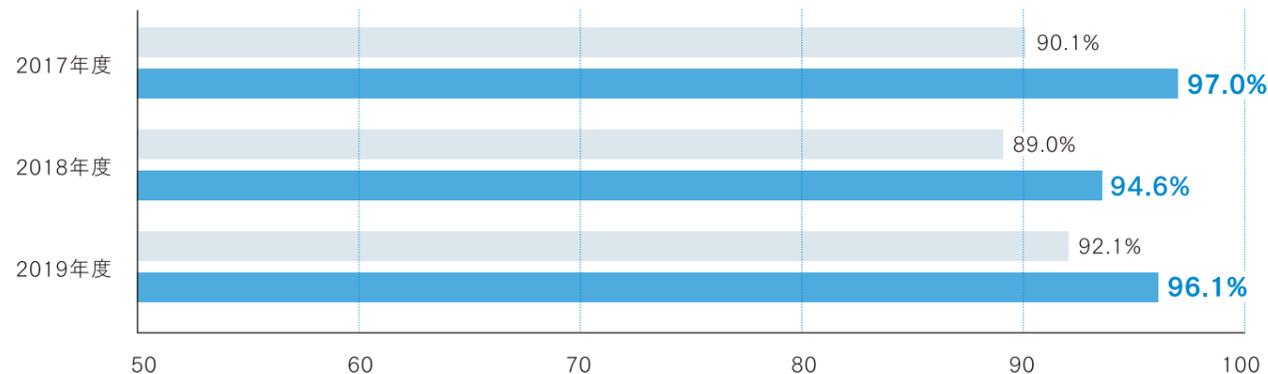
山陽・山口

岡山大学病院
 川崎医科大学附属病院
 倉敷中央病院
 津山中央病院
 岡山医療センター
 広島大学病院
 広島総合病院
 県立広島病院
 福山市民病院
 呉共済病院
 呉医療センター
 徳山中央病院
 岩国医療センター



医師国家試験合格状況

■ 全国合格率 ■ 本学新卒合格率



卒業生の声

私は医学科で6年間大学生活を過ごしました。卒業後は公立豊岡病院で研修をし、現在は鳥取大学医学部附属病院呼吸器・乳腺内分泌外科で外科医として山陰の医療に従事しています。大学在学中は勉強だけでなく、部活・アルバイト・日本一周旅行など充実した毎を送りました。研修中は肺移植が盛んな京都大学医学部附属病院呼吸器外科で本邦トップレベルの医療を勉強させていただき、顧みて鳥取大学の医療も決して引けを取らない素晴らしいものであることを実感しました。現在は「現状維持は退歩の表れ」をモットーに、充実した施設環境の中で外科医としての腕を磨いています。医師としての基礎的な土台

を築いてくれたのは、間違いなく医学科での6年間でした。充実した毎日を過ごさせてくれた環境、関わってきた方たちには今でも感謝しています。一人でも多くの命を助けられるよう、日々精進しています。

勤務先：鳥取大学医学部附属病院
 呼吸器・乳腺内分泌外科
中西 敦之 さん
 (2016年度卒業)



解剖学講座

人体の不思議を探究しよう!

教授

海藤 俊行



皆さんは人体の構造について考えたことがありますか?例えば手を使って字を書いたり、スマホを操作したり、楽器を演奏したり様々な活動をしていますが、手を動かすのに幾つの筋肉が働いていると思いますか?実は30以上の筋肉が3種類の神経の指令を受けて手を動かしているのです。解剖学講座ではこういった医学の基本となる人体の構造や機能について教育を行っています。皆さんは研究に興味はありますか?解剖学講座では…「パスカル曰く、人間は考える葦である。自然の中では弱い人間が偉大になれたのは脳の思考の賜物だよ! : 脳の構造と機能の維持機構」「紫外線は細胞のDNAを傷つけるけど、すぐに修復するんだね! : DNA修復機構の研究」「100点満点!頭をなでられると覆められた気分、感覚って不思議だな? : 皮膚感覚神経終末の分子発現」「人類の歴史、日本人の起源、それは最大のミステリー : 古人骨の形態解析」などの研究をしています。ぜひ鳥取大学と一緒に楽しく学びましょう。

統合生理学分野

生理学講座

体温が37℃なのはなぜ?

教授

渡邊 達生



皆さんは、「体温はなぜ37℃なのか? 36℃や38℃でないのはなぜか?」という問いに答えられますか?この問いに対する答えが2つ考えられます。一つ目は、妊娠中の母体の体温(胎児の環境温度=37℃)が胎児に影響した結果、体温が決定される可能性、二つ目は、体温の設定値が遺伝的に決定されている可能性です。私達は、前者の可能性を調べる為に、マウスの体外受精を行い、受精卵の培養温度を変化させて得た成体雄マウスの体温を測定しました。その結果、38℃で培養した受精卵から生まれたマウスが、37℃培養の卵から生まれたマウスより有意に低い体温を呈することを発見しました。つまり、体温の設定値は発生時の環境温度で決まるのです。現在は、発生時の環境温度が体温を決定する候補分子を脳だけで造られないようにしたマウス(ノックアウトマウス)の作製を行っています。世界で初めて体温決定因子を明らかにするのが私達の夢です。

細菌学分野

感染制御学講座

再生医療(Muse細胞)を使った感染症の治療の新たな挑戦

教授

藤井 潤



新型コロナウイルス感染症が猛威を振っています。私達は抗ウイルス剤などの化学物質でもなくワクチンでもない、細胞を静脈注射することで直す治療法を開発しています。具体的には東北大学出澤真理教授が発見したMulti-lineage differentiating Stress Enduring (Muse)細胞という聞き慣れない骨髄幹細胞を使って実験しております。Muse細胞の特徴は何にでも分化する多能性幹細胞であり、感染症で失った細胞に分化して修復までも行う点がとてもユニークです。私達はO157感染マウスモデルでMuse細胞の尾静注が非常に有効であることを発見しました。新型コロナウイルス感染症においてもMuse細胞が有効であることを信じて研究しています。感染症が人類にとっていかに脅威であるかを思い知らされた現在、私達は常に挑戦者として細胞治療の臨床応用に向け努力を重ねております。

ウイルス学分野

感染制御学講座

より広域な感染症対策に人材育成と研究を通じて取り組む

教授

景山 誠二



新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、世界を巻き込むウイルス感染症の問題の大きさを痛感させています。感染症の脅威を、医療(予防・診断・治療)によって軽減するために、アジア諸国・日本の双方に持続可能な医療のシナリオを作りたいと思います。医学部学生・大学院生・国内外の現場の研究者が、調査・研究の主役です。医学部学生教育は、講義室での「知識の系統化」から始めます。言葉とイメージは現場での意思疎通に必須です。この後、セミナーを通じて「使える知識」に誘導します。さらに、課題解決の当事者意識を育てるため、国際的な視野に立った予防医療の研修を続けています。世界保健機関・西太平洋地域事務所(WHO-WPRO)、フィリピン保健省(DOH)とその関連施設にお世話になっています。また、医学科6年生向けの臨床実習を、フィリピン共和国国立感染症中央病院において実施しています。リアルな現場経験に勝る教育はありません。

適応生理学分野

生理学講座

重力が生体に及ぼす影響とその意義の解明

教授

松尾 聡



私たちは呼吸するとき、無意識あるいは随意的にも呼吸します。姿勢が急に変化すると一時的に呼吸を停止させ姿勢変化に対応していきます。なぜ、そしてどのような仕組みで呼吸運動が変化するのでしょうか?姿勢が変わるとき内耳前庭からの情報は、頭部の位置覚や頭部・眼球運動制御に関与するだけでなく、それ以外の脳の様々な領域に伝わります。しかしその意義は明らかではありません。無意識と随意性運動切り替えの脳のメカニズムは重要な解決すべき課題ですが、このような視点も意外に重要な要素も思いつく、前庭の呼吸・循環・運動制御に及ぼす影響を調べ、重力が呼吸・循環機能に何をもちかしているか検討しています。橋渡し研究として、下半身陽圧負荷で体性感覚入力を変調させることを、前庭リハビリへ応用し、難治性めまいの治療に役立てることや、浮腫や起立不耐性の対抗策も検討しており、研究結果を臨床に還元できたらと考えています。

病理学講座

リサーチマインドを持った病理医を育成する

教授

梅北 善久



病理学講座では、附属病院の病理診断科・病理部の業務(病理診断・病理解剖・病理説明外来・病理専攻医の育成・臨床実習など)を担うと同時に、臨床各科からの大学院生等と共に、主に以下のテーマで研究を行っています。日常、行っている病理診断・病理解剖は全身諸臓器に渡っていますので、全身を俯瞰するトレーニングが自然にでき、研究を行う上で役立っています。病理診断・病理解剖の過程において、疑問に思った点などから研究の視点を見出し、独創的な研究を行うことによって、診断病理学の発展を通じた医療への貢献を目指しています。

1. Maspin (Mammary serine protease inhibitor) が悪性腫瘍(乳癌・肺癌・膵癌・口腔癌)の進展に及ぼす分子機構の解明
2. 悪性腫瘍の病理学的多様性形成機序の解明
3. 肺癌及び乳癌の予後不良因子に関する分子病理学的研究(Laser microdissection法とNGSを用いた病理標本からの遺伝子発現解析)
4. メルケル細胞癌の分子病理学的研究
5. EBウイルス再活性化による抗体産生

医動物学分野

感染制御学講座

寄生虫を通じて世界と繋がる

准教授

大槻 均



今、私たちの住む日本で寄生虫の心配をするのは、変わった食べ物を生で食べてしまった(ゲテモノ食い)時くらいのものでしょうか。しかし、わずか70年ほど前の日本人は、8割以上の人が寄生虫を体の中に持ったまま生活をしていました。今の私たちが寄生虫の心配をしなくて良いのは、経済発展のため衛生状態が改善された事が大きいのですが、将来もこのような社会が続くという保証はありません。また、一步日本の外に出れば、寄生虫による病気が珍しいものではなく、多くの人が寄生虫によって命を落としている世界が広がっています。私たちが医動物学分野は、中国地方の医学部で唯一の人体寄生虫を専門に研究している研究室であり、世界中で寄生虫が引き起こす病気に立ち向かうために、次の3つのテーマで研究を行っています。

1. マラリア原虫の赤血球侵入メカニズムの解明
2. 新規抗マラリア薬の開発と標的分子の探索
3. 糸虫幼虫による宿主免疫調整機能の解明

環境予防医学分野

社会医学講座

地域に根ざした疫学研究

教授

尾崎 米厚



国際保健医療協力で有名なネパールの赤ひげ岩村昇医師も在籍していました。学問分野は、疫学、公衆衛生学で、研究分野は、依存症の疫学(喫煙、飲酒、ネット依存、ギャンブル等)、がんの予防に関する調査、高齢者の要介護に関する調査、地域医療の疫学等です。学生教育では、1年から4年生の講義、実習を行っており、学生との接点も多いです。山陰の地域に出かけて、住民や保健医療福祉関係者との接点の中で学べる教育を重視しています。地域医療・国際保健サークルの顧問をしており、様々な診療科で働く卒業生を中心に社会人大学院生も多です。国(厚生労働省、文部科学省)、県、保健所、県医師会、市町村、医療保険者等の団体の活動支援も行っています。社会学系専門医プログラム責任者も務めています。社会問題となっている健康課題の対策につながる研究、後輩育成としての地域に根差した学生教育、地域社会の健康課題解決への支援の3本柱を軸に活動しています。

健康政策医学分野

社会医学講座

多様なバックグラウンドを持つ
メンバーが在籍



教授

黒沢 洋一

振動障害やメンタルヘルス等の産業保健医学（産業医の育成に力を入れて行っております）、国際乾燥地研究教育機構(IPDRE)と連携し発展途上の気候変動が人間や家畜、社会生活に及ぼす影響等を研究しています。環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」にも参加し、母子関係形成、子どもの精神発達等に関する影響を調べています。認知症の早期発見、予防に有効な関連要因について調べています。教育に関しては医学科「社会医学チュートリアル・実習」「社会・環境・医学」「生命倫理学」等を社会医学講座各分野等と共同して実施し、生命科学科「社会環境医学」も担当しています。「早期体験・ボランティア」「日本の文化と心」「環境科学」などの教養科目もコーディネートしています。上記の多様な研究と教育を推進するために、医師のみならず、医療・教育関係者等多様なバックグラウンドを持った人間がメンバーとして在籍しているのが当分野の最大の特徴です。

法医学分野

社会医学講座

死者から学び生者に活かす



教授

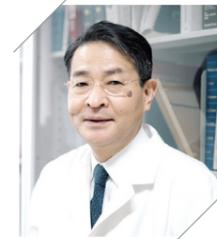
飯野 守男

法医学は医学部のなかで唯一、死因究明を専門とする分野です。とくに事件・事故の死因、すなわちアンナチュラール・デス(非自然死)のメカニズムを解明することは事件・事故の真相を解明すると同時に、死者の尊厳を守り、ひいては遺族をはじめとした関係者の気持ちを整理するためには欠かせない仕事です。そのために、我々は日々、コンピューター断層撮影(CT)を活用した死亡時画像診断(Ai)による死因究明と、DNAによる法医学的個人識別法の開発を研究の2本柱とし、日常の法医学解剖を通して真実を解明し続けています。また不慮の事故の事例からは、なぜ事故が起こってしまったのか、事故を防ぐ方法はなかったのか、類似の事故の再発を防ぐためにはどうすればいいのかを常に考え、死者から学び生者に活かす予防法医学の学問体系の確立に向け努力しています。「死因究明により生きている人たちの命を守りたい」。この大きな使命感と責任感を胸に教育・研究を続けています。

遺伝子医療学分野

ゲノム再生医学講座

臨床へフィードバックできる
研究を進めよう!



教授

汐田 剛史

人類の長い歴史を振り返ると、それは病気との闘いの歴史でもありました。人類は、手ごわい病気と闘ってきました。現在も人類を悩ます病気は多数あり、肝硬変、肺線維症などの臓器線維症、がんなどの難治性疾患には、治療法のない病気もあります。それらの病態を解明し、治療法を開発していかなければなりません。臨床現場の切実な問題を実験室で解明し、その成果を臨床に還元する研究をトランスレーショナルリサーチと言い、この研究スタイルは、"From bedside to bench and bench to bedside"とも表現されます。私たちは、トランスレーショナルリサーチを研究スタイルとしています。具体的には、肝炎治療用細胞シートなどの再生医療の開発、臓器線維症やB型肝炎の病態解明と創薬への応用、がん幹細胞を標的とするがん治療法開発などを行い、鳥取大学発ベンチャーを設立し、臨床応用を進めています。

再生医療学分野

ゲノム再生医学講座

学際領域との知の融合による
革新的な再生医療の開発



教授

久留 一郎

私たちの教室は身体機能の障害を幹細胞で再生することを目的に、基礎研究から再生医療を臨床に届け、再生医療を高度医療に繋げる橋渡し研究をめざします。教育面では医科学を再生医療へと橋渡しできる能力を持つ学部学生ならびに大学院生を育成します。また、橋渡し研究のもう一つの出口である大学発特許取得とその知的財産を用いたビジネスへの参入に関して、幹細胞を用いた創薬に資する分化細胞の開発と特許化を積極的に行います。これらの橋渡し研究を達成するには医学とその学際領域との融合が必要です。当教室は幹細胞生物学を軸として、人工知能等の異分野の知と融合した学際研究を行います。私たちのアピールポイントを以下にまとめました。

- 1.教育：学部学生の時から卒業研究を通して博士前期・後期課程へとシームレスに繋ぐ大学院教育ならびに大学間協定による海外留学生の研究指導システムの構築と実践
- 2.研究：国際特許を軸としてヒトiPS細胞由来のベースメカ細胞等の選別採取の技術

医学教育学分野

医学教育学講座

次代を担う医師を育て
未来の医療を創造する



教授

植木 賢

近年、少子高齢化に加え科学技術の進展によりロボットやAIが登場し、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そのため、今後このような社会変化に対応しながら、次世代の医療を創造することは重要な課題です。そこで、本学は世界に通用する最新の教育カリキュラムを取り入れ、理想とする医師像やキャリアプランを思い描く支援を行い、プロフェッショナルな医師としての素養を育成します。また、本学が開発した最先端の医療用シミュレーターロボット「ミコト」等を用いて体験学習を充実させ、確かな臨床技術や心構えを育みます。さらに、「やる気の心理学」や「発明楽」をはじめとしたイノベーション教育により、新しい発想をもち、未来の医療を創造する力を養います。生命の尊厳に触れながら、人に役立つ喜びを感じ、医療・研究を通じて世界の人々に貢献できる医師の育成を目指します。

健康運動科学分野

医学教育学講座

運動はヒトを幸せにする!



准教授

加藤 敏明

私たちは毎日の生活の中で歩いたり、荷物を持ちたりして何かしらの身体活動(運動)を行っています。しかし、その運動量は健康を保つ上で十分な量なのでしょうか?厚生省は「歩行以上の強度で、1回30分以上、週2回以上」を健康に有益な運動としています。我が国の成人において、その運動が実施できている人は約25%、4人に1人程度です。その結果約8割の人が運動不足を実感し、医学雑誌LANCETによれば、運動不足が原因で年間約5万人が死亡していると推計しています。運動が健康にもたらす効果は、心臓病や2型糖尿病、結腸がんなど多くのNCD(非感染性疾患)の予防効果や内臓脂肪の減量効果、身体機能向上などのフィットネス効果、あるいはうつや認知症の予防など様々な領域で認められています。つまり適度な運動習慣を持つことは我々を幸せへ導いてくれるということなのです。私たちの研究室では、対象者の身体状況や基礎疾患などの個人差に応じて、どのような運動がその人を健康へと導いてくれるのかを研究しています。

分子医学分野

ゲノム再生医学講座

遺伝子治療の先端にふれる
鳥大発の次世代バイオ創薬



准教授

中村 貴史

従来の手術、抗がん剤や放射線の標準療法に抵抗性を示す難治性悪性腫瘍に対して、新しい治療法が開発が望まれています。その一つとして期待されているがんウイルス療法は、様々なメカニズムによって腫瘍を攻撃できる利点があり、ウイルス増殖による直接的ながん細胞の溶解死滅に加え、それに伴って抗腫瘍免疫が賦活化され全身に治療効果を及ぼす、これまでにない全く新しい概念に基づいた治療戦略です。我々は、「どのようにウイルスが細胞に感染し増殖するか?」また、「どのようにウイルスが抗腫瘍免疫を賦活化するか?」といった疑問を分子レベルで解明することを起点にして、正常細胞を傷つけずがん細胞のみを標的破壊できる、既存のがん免疫療法で奏功しない腫瘍に対しても抗腫瘍免疫を賦活化できる、より安全で効果的ながん治療用ウイルスシーズの創出とトランスレーショナルリサーチを推進しています。また、その実践教育を通して最先端医療の遺伝子治療分野に貢献できる人材を育成しています。

生化学分野

病態解析医学講座

酸化ストレス・抗酸化物質
研究の新規展開



教授

松浦 達也

当分野では「酸化ストレスと病態」をメインテーマに「アポトーシスにおける酸化ストレスシグナル」、「酸化ストレスと脳神経・精神疾患」、「酸化ストレスと細胞極性」に関する研究を展開しています。これまでに酸化ホスファチジルセリンがマクロファージによるアポトーシス細胞除去を促進するメカニズムを報告してきましたが、近年は抗酸化ビタミン類のビタミンEやコエンザイムQ同族体がエストロゲン受容体結合や細胞極性亢進などの非抗酸化作用により、神経保護作用や傷修復促進作用を発揮することを見出し、脂溶性ビタミン研究の分野で注目されています。また、これら脂溶性ビタミン類が細胞膜ドメインに影響を与えることでシグナル伝達を誘導し、上皮バリア機能を強化する可能性を検討しています。脳神経・精神疾患関連では、これまでパーキンソン病関連因子α-シヌクレインのメチオニン残基の酸化修飾がドパミン神経特異的な脆弱性に関与していることを報告してきました。最近、活性化ミトコンドリアが認知機能低下、うつ様症状に関与する可能性を分子レベル、個体レベルで研究しています。

薬理学・薬物療法学分野

病態解析医学講座

キーワードは「融合」!



教授

今村 武史

薬理学・薬物療法学分野は、基礎薬理学担当の分子薬理学分野と、臨床薬理学担当の治療学分野が「融合」して誕生しました。つまり、基礎研究の成果をベースに臨床応用を目指した一連の研究を展開していくことを目標としています。研究テーマでは異分野「融合」研究を進めており、代謝性疾患である糖尿病やメタボリック症候群、肥満症に共通して認められる「インスリン抵抗性」をバックボーンとして、その合併症の治療を目指した研究展開を行っています。まず、心血管系分野との融合研究では、インスリン抵抗性合併症としての心不全や不整脈、神経系分野との融合研究では髄鞘形成や骨格筋萎縮に研究の焦点を当てています。附属病院では薬物療法内科外来を担当し、基礎研究成果を臨床研究を介して臨床応用へと橋渡しする、「融合」の目標に向かって日々努力を続けています。融合して下さる同志をお待ちしています。

画像診断治療学分野

統合内科医学講座

画像で診る、治療する



教授

藤井 進也

画像診断治療学分野は画像診断、Interventional Radiology (IVR: アイ・ブイ・アール)、放射線治療の3つの分野から成っています。画像診断という言葉は知っていますか?現代の医療では画像診断によって患者さんの体の中を診ることが広く行われています。画像診断には昔から使用されている単純X線(レントゲン)や、身体の内部を断面像で詳細に観察するCTやMRI、核医学検査などがあります。これらの検査を基に患者さんの体の中を診て、適切な診断をするのが画像診断医です。IVRは日本語では画像下治療と呼ばれ、画像診断装置を用いてカテーテルというものをを用いて血管内治療等を行っています。血管の詰まりや止血、がんの治療を主に行っています。放射線治療は悪性腫瘍に対する治療の一つとして重要な役割を果たしています。診断困難な病気を画像診断で診断可能にしたり、治療に難渋していた病気がIVRや放射線治療により治療可能になるべく、臨床研究や基礎研究に取り組んでいます。

消化器・腎臓内科学分野

統合内科医学講座

総合消化器内科専門医・腎臓内科専門医の育成



教授

磯本 一

当教室は第二内科診療科群として主に消化器疾患と腎臓疾患を担当しており、内科各領域・関連各科との連携のもと大学病院の専門診療を行っています。まずプライマリーケアと救急疾患に対応できるような医師としての基本教育を重視します。専門医の指導のもと消化器病と腎臓病の臨床経験を積める講座の特性を活かして全身を診る内科医としての総合力の涵養につとめます。その上で高次病院における先進医療を実践し高度な専門医療・地域医療を担える総合力の高い消化器内科医を養成します。先端研究と地域医療の両立が重要な課題であり、学内外の基礎医学・生命科学教室との共同研究に分野横断的に取り組み、最先端の病態解析に取り組むことで消化器病学、腎臓病学の理解を深めることによって、臨床医としても一層の成長につなげて欲しいと願っています。

呼吸器・膠原病内科学分野

統合内科医学講座

呼吸器・膠原病内科とは



教授

山崎 章

私たちの教室では、呼吸器、膠原病の診療・研究を行っています。呼吸器の疾患には、肺炎や間質性肺炎、喘息、肺癌、膠原病には関節リウマチや強皮症、SLEなどがあります。呼吸器と膠原病を1つの教室でみる大学は日本でも数少ないのですが、膠原病には呼吸器の疾患が合併することもありますし、肺癌の診療中で膠原病の様な症状も出てくることもありますので、1つの教室でこれらの疾患の診療を行うことはとても有意義です。このメリットを研究にも生かしています。基礎研究として肺癌の免疫に関する研究、気管支喘息に関わる気道平滑筋細胞の研究、強皮症の線維化に関する研究などを行っています。また、臨床研究として多施設での肺癌の研究、難治性疾患である間質性肺炎の画像や臨床像に関する研究などを行っています。まだまだ呼吸器や膠原病はわかっていないことが多く、興味深い領域です。また全国的にも専門医が少ない領域です。一緒に勉強してみませんか。

臨床検査医学分野

統合内科医学講座

ナノ粒子の世界を探求し
新たな臨床検査を創出する



教授

本倉 徹

当教室では、臨床検査・臨床血液学の教育ならびに検査部・血液内科の診療を支援しています。研究面では、血清・血漿や尿などの体液中に存在する50nm~500nmほどのナノ粒子に着目して研究を進めています。とりわけ50~100nmのエクソソームは、細胞間情報伝達系としての役割を担っており、様々な疾患のバイオマーカーとして注目されています。当研究室では、Epstein-Barrウイルス(EBV)関連疾患で血清中に分泌されるナノ粒子中に存在するEBV-encoded small RNA1が、バイオマーカーとなる可能性を探求しています。また、EBV感染により発現が亢進するvault RNAは、細胞内ナノ粒子Vaultと関連して発見されましたが、細胞外にも分泌されています。こうしたnon-coded RNAの血清中の局在や疾患との関連を明らかにするとともに新たな臨床検査法の創出することを目指しています。

循環器・内分泌代謝内科学分野

統合内科医学講座

情報発信能力のある
医師を目指して



教授

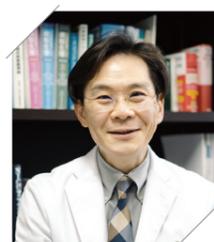
山本 一博

我々は山陰地方の最後の砦として高度な医療を提供する役割を担い地域完結型医療を実現するために、日々努力をしています。しかし医療分野には多くの解明されていない事案が残されており、定型通りに診療を行うだけでは高度な医療を実現できません。日々の診療の中でそのような事案に関連する問題点に気づき、その解決に向かって研究を進め成果を発信する、という一連の活動の中で、より高い技能や知識が身に付き、目標とする高度な医療を発信することができる医師に成長していきます。つまり良い医師となるには、良い研究者でもあることが求められます。我々が専門とする循環器疾患、内分泌代謝疾患に罹患している患者さんは多い上に、これらの領域は研究範囲が広く、基礎研究から臨床研究まで色々な角度から情報発信をする機会があり、我々は日々の診療と並行して研究活動も進め、この地域の患者さんの期待に応えることができるように努めています。

周産期・小児医学分野

統合内科医学講座

すべてのこどもに最善の医療を



教授

難波 範行

小児の特徴は「成長」することと「発達」することです。周産期・小児医学分野では、日々成長する小児の不思議に着目し、成長をキーワードとして研究を進めています。みなさんは、成長は当たり前のように起こることと思いませんか。でも、なぜヒトの成人身長は160~170cm前後なのか、なぜ靴のサイズは25cm前後なのか、実は分かっていません。体の大きさを決める重要な要素の1つに、われわれの体を構成する206個の骨があります。私たちは、ヒトiPS細胞を使って、なぜ個々の骨の伸びは異なるのか、特定の骨だけ大きくできないか、チャレンジを開始しています。その他にも希少疾患の網羅的遺伝子検査など、様々な研究を進めています。

このように、日々の診療の中で湧きでる疑問を大切にしつつ、最終的に「すべてのこどもに最善の医療を」届けられるように、日々努力しています。あなたも一緒に小児の成長を科学しませんか。

消化器・小児外科学分野

器官制御外科学講座

山陰から世界に発信する臨床、
研究、そして教育の実践



教授

藤原 義之

消化器外科では、消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌など)の治療を主に行っていますが、良性疾病(胆嚢炎、ヘルニア、虫垂炎など)や急性腹症にも対応しています。上部消化管(食道、胃)、下部消化管(小腸、大腸)肝臓膵の3グループに分かれ、高度な専門的治療を行っています。近年、体にやさしい手術(ロボット手術を含む鏡視下手術)が普及してきており、我々は積極的に導入しています。又、高度進行癌に対しては手術、抗癌剤治療、放射線治療を組み合わせた集学的治療・先進的治療を行い治療成績の向上を目指しています。小児外科は、長谷川利路 特命教授を中心に、新生児も含めた小児に対し、心臓、脳、整形を除く全疾患の外科治療を提供する、鳥取県では唯一の診療科であり、かつ最後の砦です。先天奇形、腫瘍、外傷などあらゆる病態に対応することが求められる、やりがいのある部門であるとともに、将来を担う若手外科医の教育にも力を入れています。

心臓血管外科学分野

器官制御外科学講座

心臓血管外科における研究・最先端治療を押し進め、次世代に繋ぐ価値を創造する



教授

西村 元延

心臓血管疾患の外科的治療は、人為的に心臓を停止させることが必要であったり、人為的に循環を維持することが必要であったりするため、人工心肺装置、心筋保護液などの特殊な補助手段が必要となります。安全・安心な治療のためには、そういった補助手段を向上させていくことが重要となりますし、また、その発展として、補助人工心臓や再生医療の開発・研究も必要です。心臓血管外科学分野では、中四国地方で屈指の心臓血管外科手術数の臨床経験をベースに、補助人工心臓治療や再生医療の研究を押し進め、また一方で、患者さんに優しい治療としての低侵襲心臓手術や血管内手術、手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた心臓手術などの実践を行っています。そうすることにより、優れた心臓血管外科治療を次世代に繋ぐことができると考えています。

呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

器官制御外科学講座

肺癌・乳癌の撲滅に向けてできることは全てする！



教授

中村 廣繁

大切な言葉「仕事を追え！仕事に追われるな！」
ルーツは1956年開講の外科学第二講座です。2005年に診療科として附属病院胸部外科が独立しました。2013年に呼吸器外科、乳腺内分泌外科の需要の高まりを受け、胸部外科学分野として開設され、現在に至ります。当分野では肺癌や乳癌を中心に山陰一の高度な診療と研究を行います。胸腔鏡や手術支援ロボットを駆使した低侵襲外科手術は全国のトップレベルで、他施設の模範となっています。研究では肺癌と乳癌に対して癌微小環境と悪性度の関係や分子生物学的解析を行っています。また、手術や抗癌剤の治療成績、手術手技や医療機器の開発についても、学内外の施設と共同して行っています。常に最高レベルの技能と外科マインドを備えた人間力溢れる外科医の育成を行ないます。肺癌・乳癌に対して、地域医療機関との連携に努め、市民講演や検診を通じて、啓発活動を推進しています。

麻酔・集中治療医学分野

器官制御外科学講座

疾病ではなく、人を診る全身管理のエキスパート集団



教授

稲垣 喜三

麻酔・集中治療医学分野は、麻酔科として手術麻酔業務を核として、術前の患者管理から術後の集中治療部における高度な患者管理まで、周術期で患者の安全と予後の向上、手術の円滑な遂行を目指して活動しています。集中治療部 (ICU) では、最新の呼吸循環管理や感染制御、人工臓器の使用などによって、救命が困難と予想される重症患者の生命予後を向上させています。担当する麻酔科医は、麻酔管理で培った全身管理技術を一層高め、綿密な治療計画に従って治療を推進しています。麻酔科は、全身管理のエキスパートの集団です。これら急性期医療と対照的に、疼痛外来や緩和ケアチームを通して、患者の疼痛を緩和する慢性医療へも貢献しています。麻酔科は、疾病を対象とするのではなく、疾病をもったヒト (患者) を対象としている診療科です。また、研究科としては、呼気中麻酔薬濃度の連続測定やICUにおける認知機能低下に対する薬物効果など、臨床の知見を基礎研究に結びつけ、さらに臨床にフィードバックするトランスラショナル研究を推進しています。

救急・災害医学分野

器官制御外科学講座

災害時医療を平時の救命医療に近づけて、防ぎえた災害死をなくす



教授

本間 正人

1995年阪神淡路大震災では500名もの「防ぎえた災害死」が発生した。防ぎえた災害死とは、もし平時と同じレベルの救急医療が提供されていたならば救えたはずの命。被災地内の病院は、通信も途絶し、電気・水・水道・ガスいわゆるライフラインの障害により医療の継続が出来ませんでした。当時は日本赤十字社・日本医師会等から多くの医療救護班が駆けつけたが、どこに行けば良いのか、誰の指示に従えば良いかもわからず、診療の開始も救命の72時間を大きく過ぎてからでした。当日ヘリコプターで搬送された患者はたった1名でした。われわれは厚生労働省科学研究を通して、DMATの構築と制度化に取り組み、災害に強い病院のために業務継続計画 (BCP) 作成の手引き、自衛隊輸送機を用いた患者搬送等の指針やガイドライン、研修教材等を提供してきました。われわれの研究を通して、東日本大震災や熊本地震での医療対応が確実に進歩しています。

腎泌尿器学分野

器官制御外科学講座

グローバル (think globally, act locally) な泌尿器科を目指す



教授

武中 篤

グローバルとは、地域に密着した診療の中で常に世界に発信する医療を実践するという当教室のキャッチフレーズです。診療と研究を一体のものと考え、診療に溢れている素朴な疑問を研究に生かしています。研究の柱は低侵襲手術、尿路器悪性腫瘍、尿路器機能障害です。低侵襲手術についてロボット手術の国内トップランナーであり、基盤となる世界的な外科解剖に関する知見を多数報告しています。医工連携による医療機器開発にも取り組んでいます。尿路器悪性腫瘍についてはロボット手術の多施設共同研究を主導するとともに、抗癌剤治療に関する多くの多施設共同研究に参画しエビデンス構築の一翼を担っています。また悪性腫瘍とmicro RNAについての研究を進めています。尿路器機能障害については排尿障害に対する本邦初のボツリヌス治療を行い、本治療の保険収載に向けた活動で主導的役割を担ってきました。また男性不妊に関するイオニア大学との国際共同研究も行っています。

産科婦人科学分野

器官制御外科学講座

産婦人科医は女性の生涯サポーター



教授

原田 省

少産・少子の時代である今日、女性の一生を取り扱う産科婦人科学分野の重要性が再認識されています。当科では、診療と研究面で絶えず向上心を持ち、専門性の高いサブスペシャリティ領域を極めることを目標としています。周産期分野では、多胎妊娠、妊娠高血圧症等の研究を行うことで、より安全な周産期医療の確立を目指しています。生殖医療分野では、エビデンスに基づいた不妊治療の研究を遂行し、特に子宮内膜症等の治療薬の開発や、病態解明につながる研究に取り組んでいます。婦人科腫瘍分野では、高度先進医療を実践し、悪性腫瘍を対象とした腹腔鏡、あるいはロボット手術を推進し、基礎研究としては悪性腫瘍発生のメカニズムや治療法についての確立を目指しています。臨床研究データや基礎実験を積み重ね、将来の先進的な診療につなげていけるよう日々努力しています。

整形外科学分野

感覚運動医学講座

健康的で豊かな生活を鳥取から世界へ



教授

永島 英樹

整形外科はよく美容整形と間違えられますが、整形外科では顔は治せません。骨、関節、神経 (脊髄を含む)、筋・腱、靭帯、微小血管など運動器の疾患や外傷を扱う診療科です。骨折、脱臼、膝前十字靭帯損傷、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症、関節リウマチ、骨肉腫などが代表的な疾患・外傷です。名称に外科と付いていますが、手術だけでなく運動器の内科的治療 (保存療法) も行うので、大変忙しい診療科です。研究は、高齢化が進む山陰で高齢者整形外科疾患の病態と治療成績などを研究し、国際雑誌に報告しています。また、企業と共同で腰痛のメカニズムや膝関節エコー検査方法の改良、本学工学部と共同で軟骨保護などをテーマに行っています。今後は、損傷骨髄の再生を阻害しているグリア瘢痕の抑制に関する研究や、加齢に伴う変形性関節症の病態と考えられている内軟骨骨化による関節軟骨の非薄化を解明する研究を計画しており、新しい薬物療法に繋がればと期待しています。

皮膚科学分野

感覚運動医学講座

仁義智



教授

山元 修

我が教室の理念は「仁義智」でございます。仁は「愛」、義は「人道に尽くす」、智は「知力」、または、「仁義」(他者に対し礼を尽くす)と「智」です。皮膚病で悩む患者さんに対して医療を尽くす、そのためには揺るぎない知識が必要です。従って、当科における臨床鍛錬は過酷ですが、生半可な知識で患者さんに臨むことは、その人生を左右しかねませんので、致し方ないとお考え下さい。研究について紹介するよう命じられていましたが、ここでは特筆いたしません。どうしてもお知りになりたい方は、医学部が公式に出している英語論文業績集をご覧ください。教室の廊下に貼り出している全教室員の英語論文ホルダー内の別刷をご覧くださいませ。なお、教室員には全員愛称を付けており (紹運将門、真次郎、梅ちゃん、玄百、与一鹿介、干城、大祝鶴姫、乱丸、聖少納言、軍師官兵衛)、また掲載のような似顔絵をプレゼントしており、和気藹々とした雰囲気醸し出しております。

視覚病態学分野

感覚運動医学講座

眼を究める
サイエンスが見える



教授

井上 幸次

眼科は医学の中では非常に小さい分野だと思っておられる人も多いかもしれませんが、実はquality of life(生活の質)を支える視覚を守る重要な診療科です。それは研究においても同じで、眼に関する研究を深く掘り下げていくと、それはサイエンスの根幹に通じているのだというのが我々の考えです。当教室は中でも特に眼の感染症の研究に力を入れています。感染症の研究は再生医療や癌などの研究と比べて古く、最先端医学とは感じられないかもしれませんが、「そうではない、極めて重要だ」ということを今、全世界の人が実感しておられることと思います。眼にもヘルペスウイルスやサイトメガロウイルス、細菌や真菌などさまざまな感染症が起こり、視力を障害し、失明の危機を招きます。その病態の解明や治療について、培養細胞や動物モデル、AI、患者さんのサンプルなどを駆使して多角的に研究を行っています。それ以外にもサイトカインという炎症を司る分子が加齢黄斑変性などの様々な眼疾患にどう関与してくるのかについても精力的に研究を行っています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

感覚運動医学講座

全ては患者さんに届くために
～最先端手術・基礎研究から未来に繋げ機器開発～



教授

竹内 裕美

当科は最新技術研究や基礎研究のみならず、自分達で機器を開発することも熱心に行っています。手術技術では咽喉頭癌のロボット(DaVinci)手術の研究・機器開発をしており、プロクター施設でもあるため免許取得も可能です。音声領域では局所麻酔下でのボイスプロテシス挿入方法「福原法」を開発しました。低侵襲手術の研究・技術開発は特に力を入れています。検査技術では、超音波領域で内部構造の固さを調べるエラストグラフィや音声の研究を行っています。他科と連携し超音波関連の機器開発も盛んです。基礎研究はアポトーシス誘因因子のセラミドの頭頸部癌に対する有効性・安全性・作用機序を研究しており、近年のトレンドである再生医療分野では脂肪幹細胞による声帯再生、新しい音声治療の確立を目指しています。機器では経口内視鏡挿入時の咽喉反射を少なくする「ギャグレスマウスピース」、疼痛の少ない「やわらか耳鏡」など科をあげて開発に取り組んでいます。

脳神経外科学分野

脳神経医学講座

トップナイフとして
すべてを患者さんのために



教授

黒崎 雅道

脳神経外科学分野の診療は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄・脊髄疾患、中枢神経先天奇形疾患など多岐にわたります。脳血管内治療や脳腫瘍手術では、中国四国地方でトップクラスの症例数、治療成績を誇っています。間脳下垂体腫瘍に関しては、低侵襲で高難度の内視鏡下経鼻的頭蓋底腫瘍摘出術を耳鼻咽喉科と合同で行い、内分泌代謝内科、小児科、神経放射線科などと症例の検討を重ねています。脳血管障害に関しても、脳神経血管内治療指導医を中心に的確な治療方針に基づいたチーム医療を行っており、脳卒中センターの開設に向けて、チーム医療の輪をさらに広げていく予定です。研究面では、DPCのbig dataを基にした疫学的研究、神経膠腫の悪性化のメカニズムに関する研究、臨床解剖教育研修センターにおける微小脳神経外科解剖研究などの臨床および基礎研究で実績を上げています。

脳神経小児科学分野

脳神経医学講座

こどものこころとからだの
発達に寄り添う



教授

前垣 義弘

脳神経小児科は、小児期に発症した神経疾患と子どもの発達・育児に関する全てに対応しています。これらに該当する子どもは、すべての子どもの10%を占めます。神経疾患診療としてはけいれんや意識障害に対する救急対応、リソゾーム病の酵素補充療法などの先端医療、希少難病の診断・治療を行っています。医療的ケア児の呼吸・循環・栄養などの全身管理も行っています。発達障害は子どもの7~8%を占め、その診断と治療を行っています。また、障害児の家族支援と地域連携による在宅支援も行っています。子どもの神経と発達に関するすべてに対応している診療科は当科のみですので、全国から多くの小児科医が研修に来ています。患者に寄り添える質の高い小児神経科医の育成を目指しています。

脳神経小児科の特徴
 ・全身を丁寧に診る
 ・患者と家族に寄り添う
 ・先端医療(ライソゾーム病に対するシャペロン療法の開発)
 ・チーム医療：院内外での多職種と連携

●脳神経医学講座はこの他に神経病理学分野もあります。

口腔顎顔面外科学分野

感覚運動医学講座

口腔の機能を維持する



教授

小谷 勇

口腔は、顔の下約1/3程のスペースを占める小さなものですが、その機能は咀嚼、嚥下、発音、呼吸と重要かつ複数の機能を有しています。その機能を失う疾患が我々の治療対象、研究対象となっており、現在、以下の研究に取り組んでいます。

【口唇裂・口蓋裂】口蓋裂術後に行う言語訓練時に使用する「鼻息鏡」で、評価が正確に行える新しい装置の開発に取り組んでいます。

【口腔癌】がん抑制遺伝子の一つであるmaspinと口腔癌との関連についての研究をしています。maspinは細胞内局在の評価により、予後予測因子となるのではないかと期待しています。

【新規骨再生法の開発】ヒト間葉系幹細胞の骨分化能に着目し、ゲノム編集技術により骨分化マーカーを可視化できるモニター細胞の作製に取り組んでおり、このモニター細胞を利用して新規骨再生法の開発を目指しています。

病気になっても、できるだけ口腔機能を維持できるように日々取り組んでいます。

脳神経内科学分野

脳神経医学講座

神経疾患のしくみを知り
謎を解く



教授

花島 律子

脳神経内科は、末梢から中枢神経、筋肉さらに高次機能まで神経が関わる全ての疾患を扱う科です。神経疾患にはまだ発症機序が不明なものも多く、治療法がないものもあります。このような中で、私たちは生化学、神経生理学や神経病理学、疫学研究、動物実験など様々な手法で、神経疾患の発症機序や病態の解明に取り組み、早期診断法の確立や治療法の開発を目指しています。具体的には、以下の様な研究です。

- ・経頭蓋磁気刺激などを用いた脳の可塑性や興奮性の神経疾患での変化の分析
- ・髄液・血清検体での特異的バイオマーカーの確立
- ・筋萎縮性側索硬化症モデルマウスに対する神経移植による治療の開発
- ・神経変性疾患の剖検脳でのタウ病変の分析など
(このほか、アイデア次第です)

20~30年前までは診断も困難で謎の難病だったものが、今では確定診断ができ病態も解明され治療が試みられているものもあります。是非、神経疾患の謎に取り組んでください。

精神行動医学分野

脳神経医学講座

精神医学の奥深さを知ろう



教授

兼子 幸一

精神行動医学分野は、多様な精神の障害をもつ当事者やご家族の方々を対象として、診断、治療、社会復帰や復帰後の支援等の活動を行っています。こうした精神医療の活動の基礎には、人間の精神や行動およびそれらの病的状態に関わる幅広い科学的、心理社会的な知識が必要です。当分野では、統合失調症の認知機能障害、うつ病の認知の歪みに関する臨床研究やうつ病発症の分子メカニズムに関する基礎的研究を通じ、新しい治療法やリハビリテーションの開発につながる可能性のある知見を得てきました。しかし、科学的な努力だけでは十分とは言えず、当分野は、精神医療の本質的な役割である、当事者の苦痛に共感的に関与し続けることが出来る資質を磨くことにも力を入れています。精神医学はその困難さから、未知のことが多く、完成した分野ではありません。だからこそ、精神医学は、皆さんが一生をかけて取り組む価値のある奥深い診療・学問の分野といえます。

地域医療学講座

まなび、ひろがり、つながっていく
地域医療と総合診療



教授

谷口 晋一

地域医療学講座は2010年に鳥取大学ではじめて設立され、医学部での地域医療に関する教育・診療・研究をおこなっています。地域医療とはCommunity-based Family Medicineと定義し、欧米の家庭医療学(family medicine)の考え方と日本独自の医療システムの両方を整合して学べるように工夫しています。地域医療はプライマリ・ケアの実践現場から学ぶことが不可欠なので、教育サテライト施設として日野病院(地域医療総合教育研修センター)、大山診療所(家庭医療教育ステーション)を準備しています。この2ヶ所で、地域医療学講座の教員が実際の診療を行いながら、臨床実習Ⅰ、Ⅱの医学生への指導を行っています。卒後では、総合診療専門医を育成するため「鳥取の総合診療医を育てるプログラム」を運営し、総合診療医の育成に努めています。地域医療学は新しい分野ですが、生物医学的視点だけでなく生物心理社会モデルを活用することで、患者の全体像をみる統合的な医学を目指しています。



生命科学および基礎医学の 研究者育成に特化し 30年以上トップを走り続けるパイオニア学科

MESSAGE

生命科学科長 初沢 清隆
Kiyotaka Hatsuzawa

本学科は「生命科学」という名を冠する本邦初の学科として、1990年、医学部に創設されました。以来、生命科学や医学分野において世界的に傑出した研究成果を発信しています。

本学科の目的は、生命現象の基本的な真理の探究や疾患の原因を解明する研究者、またはそこから導かれる最先端の医療法を

開発する研究者の育成にあります。

「生命科学の重大な謎を解きたい!」「難病の治療に貢献したい!」このような強い意欲を持つ若者が本学科に集い、サイエンスを楽しみお互いを高め合うことを願っています。

私たちはそのために一人ひとりを全力でサポートします。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部生命科学科では、その教育目的を踏まえ、学生が本学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士(生命科学)の学位を授与します。

1. 自然科学をはじめ一般的な教養に関する幅広い知識と、生命科学および基礎医学に関する深い知識の習得と理解、これら知識の獲得のための方法と技能を身につけている。
2. 生命科学研究の遂行に必要な基本技術とその原理の理解、解決すべき問題を自ら設定できる問題探索力、問題を適切な方法により解決に導く問題解決力を身につけている。
3. 国際的な広い視野を備えた柔軟かつ論理的な思考力、独創的な発想力を有している。
4. 生命科学における真理の探求や新しい技術の開発の重要性に対する深い理解、従来の常識や先入観に左右されない態度、他者と共同して研究を進めることができる協調性を有している。
5. 生命科学を学んだものとしての健全な倫理観と責任感を備えている。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部生命科学科では、卒業認定・学位授与の方針で示す能力や特性を学生が主体的に身につけることができるよう、次に掲げる方針のもとに体系的な教育課程を編成し実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 生命科学の専門知識とともに幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
2. 全学共通科目では、自然科学をはじめ一般的な教養を学ぶとともに、医学・生命科学を支える基礎的な知識および技術の習得を図ります。
3. 専門科目では、幅広い医学知識、専門性の高い生命科学知識、生命科学研究に必要な基礎技術の習得および生命倫理の理解を図ります。
4. 論理的思考力、独創的な発想力、的確な表現力およびコミュニケーション能力を育成します。同時に、真理の探求や新しい技術の重要性に対する理解を促します。

(2) 教育方法

目標とする学修成果を達成できるように、1～3年次では、教育課程・教育内容に挙げた内容について、講義および実習を通して学修を推進します。最終年次における「生命科学特別研究」では、所属する研究室においてきめ細やかな指導を行います。これらについて、一対一の対話型および参加型教育を行い能動的な学修を推進し、主体的な問題探索力、問題解決力の育成と修得を図ります。

(3) 学修成果の評価

1. 目標とする学修成果を達成できるように、各年次における試験、レポート、および実習での能動的な探求の姿勢について適切な方法を用いて厳格に評価します。さらに、学修成果の達成度を可視化することに努めます。
2. 最終年次における「生命科学特別研究」は、日常の研究に取り組む姿勢、研究態度、そして卒業論文により、学修成果の到達度を適切に評価します。
3. 学修成果をモニターして教育課程の効果と適切性を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

鳥取大学医学部生命科学科では、生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を目指す、次のような人を広く受け入れます。

1. 学修に必要な高等学校等までの理科(生物、物理、化学)の知識と基本的な語学力と国語力を備えた人
2. 現代の医学・生命科学およびその関連分野の動向・進展に関心があり、それらの知識・技術を学ぶとともに向上・発展させる研究活動に興味を持つことができる人
3. 真理探究の意欲を有し、創造的目標の達成にチャレンジでき、そして勉学・自己研鑽に努力をおしまない人
4. 協調性を備え、生命科学を通して国際的な広い視野と仕事への使命感を持って人類に役立つ喜びを感じる人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、様々な能力と関連付けて明示し、多面的かつ総合的な評価による多様な入試の機会を設けます。

学科の特色

「生命科学」とは、生き物が生きている過程で起こる様々な事柄を、分子の動き、遺伝子の働き、細胞のふるまいなどから調べて、「いのち」の現象、その不思議さを科学的な視点で解き明かす学問です。その成果を医学、農学、工学、環境分野などに応用し、社会に貢献する学問でもあります。



1. 医学部にある生命科学科

本学科は、医学とその関連領域をつなぐ生命科学研究者の育成をめざして、平成2年に全国にさがかけて設置されました。医師を養成する学科ではなく、生命現象の解明と、新しい時代の医療への貢献を両軸とする、4年制の学科です。

医学部にある学科の特色として、細胞や遺伝子などの生物学の知識に加えて医学関連の知識を学び、生命科学への理解をより深いものにしていきます。また、遺伝子操作技術や細胞解析などのバイオサイエンス技術を修得できます。さらに難病の疾患モデル動物の作成やiPS細胞を用いた再生医療など、最先端の生命科学研究への道が開かれています。

生命科学科 2講座 7分野

分子細胞生物学講座

- ・分子生物学分野
- ・細胞ゲノム機能学分野
- ・免疫学分野
- ・ゲノム工学分野

生体情報機能学講座

- ・発生生物学分野
- ・実験病理学分野
- ・神経科学分野

2. 充実した教育・研究環境

本学科は、医学科(基礎系・臨床系)および保健学科の講座、また研究推進機構との連携による充実した教育研究環境を持っています。隣接する染色体工学研究センターやとっとりバイオフロンティアでは、染色体工学を用いた先端的な研究や産学連携研究が行われています。さらに、新たに設置された「とっとり創薬実証センター」では、染色体工学技術で作出した資材を用いて抗体医薬や疾患治療薬などの医薬品の創出を目指しています。本学科学生はこのような環境で教育を受け、また、研究を行うことができます。



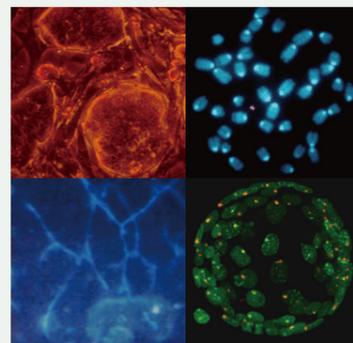
生命科学科と連携する研究組織

- ・研究推進機構
- ・染色体工学研究センター
- ・とっとりバイオフロンティア
- ・とっとり創薬実証センター

3. 充実した大学院

—さらに専門的な知識を—

本学科から進学できる大学院として、本学医学系研究科の医科学専攻[博士前期課程(修士2年間)、博士後期課程(博士3年間)]が設置されています。また、研究内容によって、同じ医学系研究科の「臨床心理学専攻(修士2年間)」や博士前期課程修了後に「医学専攻(博士4年間)」への進学も可能です。本学科の卒業生の多くが、専門的な知識を学ぶべく、大学院に進学しています。



Curriculum

※1年次は鳥取キャンパス(鳥取市)で他学部の学生とともに学びます。
 ※1・2年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。
 ※2・3年次には、生命科学科7分野それぞれの講義・実習・セミナーがあります。
 ※講義の一部は、医学科・保健学科の教員により行われます。

1年	2年	3年	4年
人体の構造と機能 栄養と代謝 健康と生体情報 人間発達と健康論 生命科学概論Ⅰ	実験動物・倫理学 基礎腫瘍学 社会環境医学 組織学 生理学 生化学 病気と微生物 病気と病理 くすりと作用 生命科学概論Ⅱ コミュニケーション法 遺伝子ベクター理論 生命科学基礎実習 分子生物学概論 システム発生生物学 実験病理学概論 遺伝生物学 構造生物学・バイオインフォマティクス 遺伝子医療学概論 再生医療学概論 免疫学 細胞工学 基礎神経科学 基礎発生生物学 システム神経科学 特別講義Ⅰ～Ⅱ	環境衛生学 人類遺伝学 心の病 老年医学 周産期医学 臨床検査学(検査機器論) がんのメカニズムと治療 内科学概論 外科学概論 ゲノム工医学 遺伝子制御学 分子生物学実習 染色体工医学 細胞工学実習 神経科学実習 分子発生生物学 発生生物学実習 生体防御機構学 免疫学実習 実験腫瘍病理学 実験病理学実習 各分野によるセミナー 特別講義Ⅲ～Ⅶ バイオ技術 学外研修	生命科学科特別研究(卒業研究)

※卒業研究は、生命科学科に加え、医学科、保健学科、染色体工学研究センター、研究推進機構などの幅広い分野の中から研究室を選択します。

在学生の声

私にとって生命科学科は、生き物の持つ不思議な現象や、生命の尊厳について学び、問い続ける場です。

たとえば、受精卵という1つの細胞の状態から、どのようにしてあなたは形成されるのでしょうか?国民の2人に1人は罹患すると言われる「がん」は、どのようにして予防・診断・治療できるのでしょうか?新興感染症の予防や治療に関し、生命科学者はどのように貢献できるのでしょうか?また、科学者として、どのような倫理観を養えばよいのでしょうか?本学科の講義は、以上のような問いを考えるきっかけとなります。

さらに、臨床医学や心理学、遺伝カウンセリングの講義を受けることで、生物学の知見がどのようにして、医療に還元されるのかを学べます。実習や卒業研究では、自ら問題提起し、仮説をたて、検証、発表することに挑戦できます。

本学科では、生き物の誕生から最期まで、それらの背景にある現象について、探求することができます。ぜひ一緒に、生き物の「人生」について多角的な視点で考える日々を、謳歌しませんか?



木村 宇輝 さん
生命科学科4年(兵庫県出身)

私は、中学生の頃から「現在の医学では救えない命を救う」研究がしたいという夢を持ち、生命科学科に進学しました。本学科では、医学部にあるという特色を生かし、医学科、保健学科の友人との交流や、隣接する大学病院の先生の講義などを通して、臨床現場の声を聴きつつ研究を行えることがユニークな点であると感じています。生命科学・基礎医学の研究に加え、薬の開発や診断・治療といった臨床研究へと応用する橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)にも携わることができます。もちろん、生命の疑問にとことん向き合う基礎研究も!医学・生命科学の研究をしたいと考えている人にとっては最高の環境で学問に励むことができます。

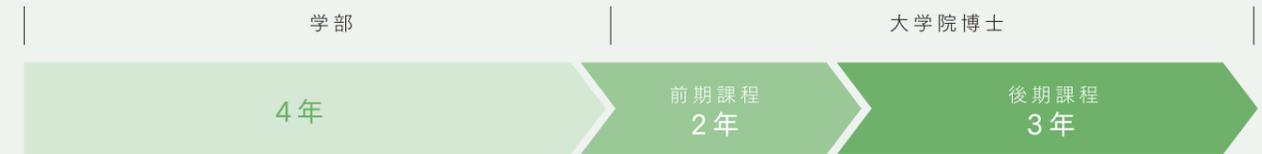
また、米子キャンパスは大山という山が近く、夏はキャンプ、冬はスキーやスノーボードが楽しめ、皆生温泉や海なども近くにあるため身近で充実した休日を過ごすことも出来ます。ここ鳥取大学生命科学科で、勉強も遊びもめいっぱい満喫しませんか?



岸間 菜々美 さん
生命科学科4年(兵庫県出身)

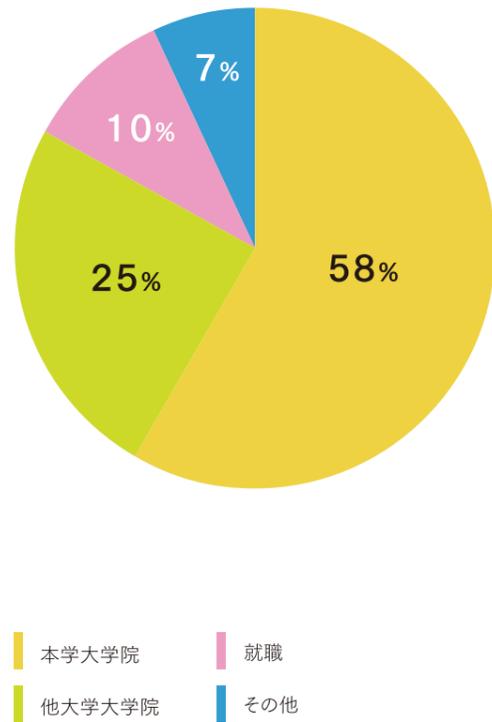
卒業生・修了生の進路

生命科学科の卒業生の8割以上は、本学あるいは他大学の大学院博士課程（修士課程）に進学します。また、卒業生・大学院修了生の多くは、大学・研究機関における研究職のほか、製薬・食品企業の研究開発職や公務員・病院・出版関連企業等に就いています。今後、社会のニーズに対応して再生医療・遺伝子医療や臨床研究等のコーディネーターなど生命科学の知識が必要とされる新たな職種への進路も広がります。就職活動は、専任のスタッフがサポートしています。



学部卒業生の進路・就職先

（主な進学先・就職先：平成27～令和元年度）



進学先

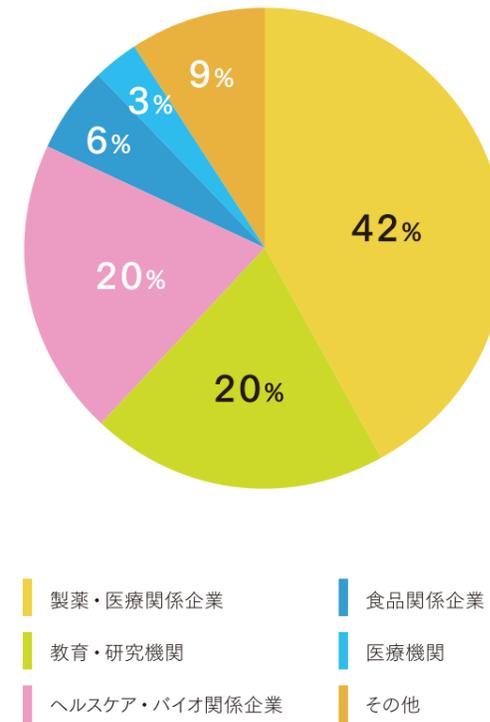
- 鳥取大学大学院
- 北海道大学大学院
- 東北大学大学院
- 信州大学大学院
- 新潟大学大学院
- 東京大学大学院
- 東京医科歯科大学大学院
- 筑波大学大学院
- 千葉大学大学院
- 名古屋大学大学院
- 京都大学大学院
- 京都府立医科大学大学院
- 神戸大学大学院
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 広島大学大学院
- 岡山大学大学院
- 九州大学大学院
- 他

就職先

- イーピーエス
- シミック
- 新日本科学PPD
- 日本メドトロニック
- 総合メディカル株式会社
- 日本血液製剤機構
- 杏林製薬
- 医学生物学研究所
- エシック
- 総合メディカル
- ミオ・ファティリティ・クリニック
- みなとみらい夢クリニック
- 古賀文敏ウイメンズクリニック
- ライフサイエンス出版
- 地方公務員
- 他

大学院修了生の就職先

（主な就職先：平成27～令和元年度）



就職先

- アステラス ファーマ テック
- 大塚製薬
- 第一三共RDノバレ
- 大峰堂薬品工業
- バイエル薬品
- 沢井製薬
- 久光製薬
- 塩野義製薬
- テルモ
- ニプロファーマ
- シスメックス
- タカラベルモント
- 極東製薬工業
- 新日本科学PPD
- シミック
- メディサイエンスプランニング
- 富士フイルム和光純薬
- 川澄化学工業
- 石原産業
- 資生堂
- タカラバイオ
- ADEKA
- 万田発酵
- フジッコ
- 食品薬品安全センター
- 科学技術振興機構
- 南江堂
- 島根県警察（科学捜査研究所）
- 東京大学医科学研究所
- 三重大学大学院医学系研究科
- Trans Chromosomics
- エボルブ・バイオセラピューティクス
- 鳥取大学染色体工学研究センター
- 国立精神・神経医療研究センター
- 実験動物中央研究所
- 福岡生殖医学研究所
- 鳥取大学医学部附属病院
- 他

卒業生の声

私は、生命科学科で学部を過ごし、他大学大学院で博士課程を修了し、現在は米国イリノイ大学でテニュアトラック教員として研究に従事しています。入学当時は、医学研究を通して、効果的な治療を待つ難病患者さんに治療法を届けたいという希望を持っていましたが、実際に研究に触れてみると、社会貢献だけでなく生命の根幹を明らかにするという好奇心が強く刺激されました。細胞、組織の中は合理的に機能しているのに、そのメカニズムは明らかにされていないことが山ほどあります。自分の中の「なぜ？」と「誰かの役に立ちたい」という思いに背中を押され、研究に勤めています。

現在は、腸内炎症疾患モデルマウスを使い、腸内細菌がどのように我々の体に影響を及ぼすかを研究しています。

米国イリノイ大学テニュアトラック教員
(生命科学科 13期生)

佐野 晃之 さん



Q & A

医学科や既存の理工学部の生物系学科とどこが違うのですか？ また、他大学の生命科学科との違いはどんなところですか？

最大の特徴は、医学部の中にある生命科学科だということです。基礎的な医学の講義を受けたり、医学科、保健学科との合同講義の機会もあるなど、理・工学部などの生命科学科に比べると、医療に役立てることをより意識した生命科学の教育・研究を指向しています。医学科、保健学科の講座と連携した卒業研究・大学院研究を行うことも可能です。生命科学科に隣接する研究推進機構、染色体工学研究センター、とっとりバイオフィロンティアなどの研究環境も充実しています。これは、本学科が設立からすでに30年あまりの実績を誇り、各センターとのしっかりとした連携があるからこそ出来ることです。

さまざまな業界で活躍する1,000名にのぼる卒業生のネットワークを持っていることも強みです。先輩達がさまざまな形で皆さんをサポートしてくれます。一学年が少人数のため、同級生、先輩後輩や教員との距離がとてに近い学科です。



分子生物学分野

分子細胞生物学講座

細胞の世界を覗けば
生命の原理が見えてくる



教授

初沢 清隆

私たちは、時として様々な疾病に罹り悩まされますが、その多くが未だ原因究明に至っていない状況にあります。私たちは細胞から個体レベルでの基礎的な生体機能(生体防御、遺伝子の調節制御など)を解明することが、一見遠回りようですが個々の病因を明らかにする上でとても重要と考え研究を進めています。具体的には、①マクロファージのように病原微生物と闘う食細胞に備わっている特殊な機能はどのように発揮されるのか?②DNAのメチル化などゲノム構造がどのように調節され遺伝子の働きに関わっているのか?これらの解明をテーマに掲げ、分子イメージング技術や遺伝子工学技術などを利用し、分子の細胞内ダイナミクスの可視化システムや遺伝子導入細胞を作製しています。好奇心と謙虚な姿勢で細胞の世界を覗き、内包された美しい生命の原理を一つひとつ拾い上げ理解することが、疾病の原因解明や治療法の開発へと還元されるよう日々取り組んでいます。

細胞ゲノム機能学分野

分子細胞生物学講座

つなげたい
病気の解明から治療に向けて!



教授

久郷 裕之

染色体には、ほとんどの生命現象に重要な働きをしているタンパク質を作るための設計情報(遺伝子)と構造や遺伝子の配置などを含め生物が経験してきた進化の痕跡が埋め込まれています。私たちは、この染色体の特性を利用した独自の染色体工学技術の開発によって自然界にない細胞を作り出し、病気の解明から治療への応用を目指しています。

- 1.新しいがん抑制遺伝子の働きを解き明かし、発がんメカニズムの理解と診断・治療への応用
- 2.細胞の老化が何故起こるのか?不死化能を獲得する発がん機構の解明からその謎に迫る
- 3.染色体ベクターを利用した遺伝子治療あるいは人と同じような薬の反応を示す動物を作製し、薬物の代謝・安全性・毒性の評価システム開発
- 4.ヒトと同じような免疫反応を示す動物を作製し、抗体医薬つまり治療薬の開発

このように私たちの研究室では、基礎生物・再生医療・創薬部門などの様々な幅広い分野にまたがり研究に取り組んでいます。あなたも一緒に挑戦してみませんか?

発生生物学分野

生体情報機能学講座

生き物が正確に
形をつくるしくみは何だろう?



教授

竹内 隆

私たちの体は精巧な形と特有のサイズをもった組織からできています。受精卵からこれらの組織が正確につくられるしくみは大きな謎です。一方、私たちヒトは、多くの組織を再生できません。ところが、両生類のイモリは四肢やレンズ、さらには脳や心臓までも再生します。このとき、失われる前と全く同じの形とサイズの組織が再びできます。すなわち、再生においても正確な形づくりが行われます。そのしくみも大きな謎なのです。私たちの研究室では、イペリアトゲイモリというイモリに注目し、個体での遺伝子操作に成功しました。一方でイモリでは発生や再生を操作する実験法、たとえば微小な組織の交換移植などが古くからとても充実しています。私たちの研究室では、これらの技術を用いて、上記の発生と再生の謎の解明をめざしています。この謎が解ければ、私たちヒトでも多くの組織を大規模に(たとえば腕を丸ごと?)再生できる日が来るかもしれません。そんな壮大な夢を抱きながら、私たちは日々、研究に取り組んでいます。

実験病理学分野

生体情報機能学講座

がんを知る、がんを防ぐ



教授

岡田 太

がんは、日本人の一生のうちで2人に1人が患い、その半数が治療で治ります。しかし、3人に1人はがんで命を落としています。また、その10人のうち9人は転移で不幸の転帰を辿っています。がんは治る病気になってきましたが、未だに人類の最期に伴う疾患です。私たちの研究室では、がんや転移がなぜ起きるのかの原因論を探索する研究を行っています。これらの原因を明らかにすることで予防や治療の方法論を開発して、臨床への応用を目指しています。進行中の研究課題は、①肝転移のドライバー遺伝子Amigo2による転移予測と予防法の開発。②核酸医薬による転移予防。③腫瘍内血管新生阻害による新規がん退縮法の開発。④炎症による発がんの化学予防。⑤発がんに占める活性イオウ分子種の意義などです。

あなたも鳥取大学医学部生命科学科でしか行うことのできない“がん研究”と一緒に始めてみませんか。

免疫学分野

分子細胞生物学講座

「免疫」は諸刃の剣?



教授

常世田 好司

私達の身体は病原体を記憶することができます。その記憶によって、同じ種類の病原体が再び侵入したときには、迅速に病原体を取り除くことができます。ワクチンを開発する上で、この記憶力を自在に高めることができれば、あらゆるワクチンの能力を高めることができるかもしれません。一方で、自己免疫疾患やアレルギー疾患のように、自己や無害のものを病原体と間違い記憶してしまう病気が存在します。この病気を完治させる上で、この記憶力を喪失させることは、あらゆる自己免疫疾患やアレルギー疾患の完治に向けて、非常に有効であると考えられています。私たちの研究室は、免疫記憶の形成と維持のメカニズムを明らかにすることで、その記憶力を制御する方法を見つけ出し、新しいワクチンの開発や自己免疫疾患・アレルギーの完治につなげていくことを目指しています。良い記憶にも悪い記憶にもつながる免疫系の研究と一緒に進めていきましょう。

ゲノム医学分野

分子細胞生物学講座



学生実習風景

神経科学分野

生体情報機能学講座

使って育つ脳のしくみ



教授

畠 義郎

古来、数多くの哲学者、心理学者、脳科学者が「私とは何か?」「世界はどう認識されるのか?」など様々な心の謎に取り組んできましたが、まだまだわからないことは山ほどあります。もののしくみがわからないときに有効な手段の一つは、その成り立ちを調べることです。子供の脳はどうやって育つのか?実は、脳は時間がたてば育つというものではありません。正しく使ってはじめて育つのです。ものを見る脳のしくみが発達する時には、きちんと「見る」経験が必要です。幼児期に眼をふさぐと、その眼の情報を運ぶ神経は発達できません。社会的な行動も同じです。どんな状況でどんな行動を選ぶのか、そのような人柄に関わる脳の特徴も育ち方に影響されます。経験が、どのようにして脳の発達を制御するのか?その仕組みがわかれば、心の育ち方や、それにまつわる様々な問題の解決法もわかるに違いありません。そう思って日々研究を続けています。

最近の卒業論文テーマ

- 肥満細胞の体内分布と皮膚における分化過程の解析
- ドラッグリポジショニングによる抗炎症作用を有する薬剤探索
- メラノーマにおけるp53非依存的な新規がん抑制機構の解明
- 非標準的オートファジー(LAP)の可視化と制御因子MORN2の発現調節の解明
- ゲノム編集を用いた次世代神経細胞標識法の開発
- 人工染色体を用いた医薬品腸管吸収予測モデル細胞の開発
- イモリとマウスの心臓再生能力の違いを生み出す要因は何か?
- 幼少期ストレスがラットの前頭前野の構造に及ぼす影響
- 骨分化をモニターするレポーター細胞の作製
- 早産誘導時の胎盤における免疫細胞の動態



個性の尊厳に基づいた看護実践能力と 幅広い分野で活躍する臨床検査技師の育成

MESSAGE

保健学科長 網崎 孝志

Takashi Amisaki

伝統ある鳥取大学医学部と一緒に学びましょう

鳥取大学医学部保健学科は、いたわりの心を持ち、協調性を備え、確かな臨床実践能力を有したリーダーとなれる人材を育成することをその役割りとしています。大学院では高度な専門医療職業人の養成や、一線級の研究を行っています。

中海のほとり、米子市の街のほど近くに、医学部キャンパスは位置し、附属病院や先端研究

施設も有しています。学生たちはこのキャンパスで、勉学はもちろん、課外活動や四季折々のイベントに、楽しく充実した大学生活を送っています。

私たちが、学生たちとの学びを通して、鳥取大学医学部保健学科のさらなる発展に寄与できるよう励んでいます。



保健学科看護学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部保健学科看護学専攻の教育課程を修め所定の単位を修得して卒業要件を満たし、鳥取大学の学位授与の方針に加え、以下の能力や特性を身につけたときに学士(看護学)の学位を授与します。

- 看護職者の役割と責務を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、倫理的に行動することができる。
- 看護の基礎となる人間と健康生活を理解し、人間、健康、環境、看護に関する専門的知識と技術の修得、さらに、あらゆる対象の健康生活のために科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有している。
- 対象者の利益のために保健・医療・福祉をはじめ種々の関係者と連携・協働し、調整する能力を有している。
- 看護学の発展のために、看護実践の中から課題を自立的に探求し、論理的・創造的に解決し続ける能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

- 鳥取大学のグランドデザインの柱である現代的教養と人間力を身につけるために文化・社会・自然に関する幅広い科目を編成します。
- 全人的医療人の基盤として、こころ・身体・社会の構造と機能について学習し、さらに、看護学の視点から生活者の健康について学習できるカリキュラムを展開します。
- あらゆる対象の健康生活を科学的根拠に基づき支援するために、看護の対象、看護実践の場、健康にかかわる課題、看護実践の方法について学習を充実します。
- 看護の本質を追究し続ける姿勢を身につけるために、看護の論理的追究および実践的追究の方法に関する学習を充実します。

(2) 教育方法

- 自ら学ぶ力を高め、学びを統合するために、対話型・参加型・実践型教育の展開に努めます。
- 看護の対象となる人々が生活する多様な場において看護実践教育を行います。

(3) 学修成果の評価

- 目標とする学修成果を達成できるように、知識、技能、態度について試験、レポート等の適切な方法を用いて厳格に評価します。
- 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を志す、次のような人を広く受け入れます。

- 健康に関わる様々な問題について、深く広い関心のある人
 - 看護学を学ぶために必要な基礎学力のある人
 - 相手の言葉に耳を傾け、相手の立場を思いやることができ、自らの確に表現する力のある人
 - 問題解決のために柔軟な発想と多面的・論理的な思考力を持ち、自分の考えを表現できる人
 - 自ら課題を見出し主体的、創造的に探究して自己の成長を目指す人
- これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を様々な能力と関連付けて明示し、多面的かつ総合的な評価による多様な入試の機会を設けます。

保健学科検査技術科学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、鳥取大学の卒業認定・学位授与の方針に加え、次に掲げるように能力や特性を身につけたときに学士(保健学)の学位を授与します。

- 幅広い視野から人間を理解し、倫理的に行動する態度と姿勢を有している。
- 臨床検査学の高い専門的知識と技術を身につけている。
- 医療人としてのコミュニケーション能力、思考力、判断力、協調性を有している。
- 地域のみならず国際的な医学・医療の発展に貢献できる科学的探究能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

- 幅広い知識と確かな実践力をもった人材を育成するために、バランスのとれた教養教育と専門教育を行います。また、自立的な生涯学習力を養成します。
- 臨床検査技師に必要な科目を中心にして、専門科目を体系的に学べるよう教育課程を編成します。臨床検査技術の習得につながる実習科目を充実します。
- 医療人として必要な医学の専門科目に加え、コミュニケーション能力を育成する科目を設置し、他者との違いを理解し、他者を思いやる心と倫理観を涵養します。
- 大学附属病院を含む地域の医療施設で実習を行い、臨床現場での体験学習を充実させます。
- 最先端のバイオサイエンスや医学・医療の実際を学ぶ教育課程を編成します。また、課題研究など国際的に適用する問題解決能力・創造的表現力を育成する科目を設置します。

(2) 教育方法

- 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

- 試験、レポート等の適切な方法を用いて厳格に評価します。
- 学修成果の可視化に努め、適切性を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

- 科学的な思考力、判断力、表現力があり、主体的に学ぶ意欲のある人
- 医学・医療や生命医学を学ぶための基礎的な知識・技能のある人
- 倫理観を備え、周囲の人と協調して行動できる人
- 地域の医療・保健に加えて、国際的にも貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を様々な能力と関連付けて明示し、多面的かつ総合的な評価による多様な入試の機会を設けます。

MESSAGE

看護学専攻主任 松浦 治代
Haruyo Matsuura



看護学専攻では、いつでも、どこでも、誰にでも、切れ目なく、すべての人が生涯にわたり、より健康に、また病気が障がいがあってもその人らしく生活できることを目指した支援ができる看護職(看護師、保健師、助産師)を養成します。人の尊厳を守ることを基盤とし、看護実践の基礎となる知識と技術の習得はもちろん、対象者に寄り添い共に支えるチーム関係者と連携・協働できる能力、豊かなコミュニケーション能力、そして専門職業人と学び続ける基礎としての自律的に学ぶ力、の育成にも力を入れています。

看護学は、人と関わる、自らも人として大きく成長できる魅力ある学問領域です。私たち教員も、日々学生から新しい気付きをもらっています。専門職としての基盤を共に学んでいきましょう。

専攻の特色

1. 模擬患者さん参加型演習

医療現場で必要とされる知識・技能・態度をできるだけ現実に近い状況の中で訓練するために市民ボランティアによる模擬患者参加型の演習を取り入れています。



学生の声

良い緊張感の中で、その場の患者さんの状況、状態に合わせた関わりを学べます！

2. 附属病院での臨地実習

鳥取大学医学部附属病院の実習では、患者さんの思いに寄り添った、その人らしさを支える看護の実践を学びます。



学生の声

実習指導者さんや教員の丁寧で熱心な助言を受けられるので、実習がとても充実しています！

3. 地域の方と関わる看護活動

地域で暮らす人を支える看護活動として、生活習慣など各地域の健康課題をテーマに健康教育等を実施し、予防的な視点も学びます。



学生の声

より健康的な生活習慣をご提案するためには、住民さんおひとりおひとりの日頃の生活を知ることが重要です！

取得可能資格 看護師、保健師、助産師(選択)、養護教諭二種

助産師資格については、受講生が10名程度と制限されており、希望者が多数の場合は学内で受講者を選考します。養護教諭二種免許は保健師資格取得後に申請可能です。

Curriculum

※1年次は鳥取キャンパス(鳥取市)で他学部の学生とともに学びます。
※1~3年次は下記の専門科目他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。
※2年次以降は米子キャンパス(米子市)で専門基礎科目、専門科目を学びます。
医学部附属病院を中心として総合的な実習の体制がとられています。
※医学科・生命科学科との密接な連携のもとで教育・研究を行います。

1年	2年	3年	4年		
人体の構造と機能Ⅰ	心の病	成人看護学	医療情報システム学	在宅看護学演習	災害支援・ボランティア
人体の構造と機能Ⅱ	病気と病理	健康障害と看護Ⅰ	人類遺伝学	在宅看護学実習	医療コミュニケーション
人間発達と健康論	病気と微生物	健康障害と看護Ⅱ	生活援助論演習Ⅲ	家族看護論	成人看護学実習Ⅱ
栄養と代謝	疾病論	老年看護学	成人看護学演習	看護の統合	公衆衛生看護学Ⅱ
コミュニケーション法	くすりと作用	老年看護学演習	健康の危機と看護	看護研究方法論	在宅看護学実習
人体の構造と機能Ⅲ	保健医療福祉行政論	母性家族看護学	成人看護学実習Ⅰ	助産診断・技術学Ⅰ	統合実習
看護学原論	疫学	母性家族看護学演習Ⅰ	老年看護学実習	助産診断・技術学Ⅱ	看護学課題研究
看護学方法論	国際保健医療論	小児家族看護学	尊厳のある死と看護	助産診断技術学演習Ⅰ	助産診断技術学演習Ⅱ
生活援助論演習Ⅰ	周産期医学	公衆衛生看護学Ⅰ	母性家族看護学演習Ⅱ	助産業務管理論	助産業務管理実習
基礎看護学実習Ⅰ	老年医学	精神看護学	母性家族看護学実習		助産学実習
	がんのメカニズムと治療	精神看護学演習	小児家族看護学演習		※看護、健康など幅広いテーマの中から課題研究に取り組みます。
	生活援助論演習Ⅱ	在宅看護学	小児家族看護学実習		
	治療援助論演習	住民活動と健康	公衆衛生看護学演習		
	症状コントロールと看護	助産学概論	公衆衛生看護学実習		
	基礎看護学実習Ⅱ	リプロダクティブヘルスケア論	精神看護学実習		

※看護学を学ぶ上で基盤となる科目を学びます。

卒業後の進路

(主な就職先・進学先：平成27~令和元年度)

国家試験合格率、就職内定率は、毎年高い水準を維持しています！
鳥取県内をはじめ、全国各地に就職しています！



関東

がん研有明病院
東京女子医科大学病院
東京都立駒込病院
東京労災病院
横浜労災病院
東京医療センター
順天堂大学医学部附属順天堂医院
日本赤十字社医療センター
国立成育医療研究センター
聖路加国際病院

近畿

宮津市(保健師)
京都大学医学部附属病院
京都第一赤十字病院
京都武田病院
市立福知山市民病院
和歌山県立医科大学附属病院
北野病院
寺元記念病院
淀川キリスト教病院
大阪大学医学部附属病院
大阪母子医療センター
愛染橋病院
大阪医科大学附属病院
大阪医療センター

大阪府立病院機構
近畿中央病院
笹生病院
神戸市民病院機構
神戸大学医学部附属病院
姫路医療センター
赤穂市民病院
姫路赤十字病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
公立豊岡病院組合立豊岡病院
兵庫県立丹波医療センター
兵庫医科大学ささやま医療センター
八尾市(保健師)

山陰

鳥取県立中央病院
鳥取市(保健師)
鳥取市立病院
鳥取生協病院
鳥取赤十字病院
鳥取大学医学部附属病院
山陰労災病院
米子病院
博愛病院
大山町保健福祉センター
松江赤十字病院
鳥根大学医学部附属病院
鳥根県立中央病院

山陽・山口

岡山大学病院
倉敷中央病院
岡山市立市民病院
岡山市(保健師)
マツダ病院
広島大学病院
広島西医療センター
福山医療センター
広島市立病院機構
山口大学医学部附属病院

四国

三豊総合病院
愛媛大学医学部附属病院

九州

九州医療センター
諫早総合病院
長崎医療センター

進学先

岡山大学養護教諭特別別科
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻
鳥根県立大学別科助産学専攻
鳥取県立倉吉総合看護専門学校助産学科

卒業生の声



私は神経内科病棟で勤務しています。難病患者の方など生涯に渡り在宅支援を必要とする方が多く入院しておられます。病棟勤務をするなかで、患者さんの退院後の生活を具体的にイメージした退院支援をしたいと思うようになり、訪問看護ステーションに1年間出向し、在宅看護の実際を経験する機会を得ました。実際に利用者宅を訪問し、ケアの提供やアドバイス、緊急時対応、在宅関係機関や病院との連携を行いました。ご本人・ご家族の希望を元に、予測される問題点、必要なケア、トラブル時の対応等について、ご本人・ご家族と十分に話し合いを行うことの大切さを再認識しました。また在宅での看取りを経験し、治療だけでなく看護のあり方について自身の看護観にも新たな気づきがありました。現在は出向から帰って約1年が経ちます。出向で学んだ広い視点でリスクを予測することを意識しながら、患者指導やサービス調整を行い、また、多職種協働で患者さん・ご家族の方の意思決定支援に携われるよう日々努めています。

山城 由佳さん
勤務先：鳥取大学医学部附属病院 (保健学科 看護学専攻11期生)

在学生の声



谷長 智華さん
保健学科 看護学専攻3年 (鳥取県出身)

1年次は、看護の基礎と一般教養を学び、知識の幅を広げました。大学でテニスを始め、部活での人との関わりが患者さんとのコミュニケーションをとる際にも役立っています。2年次からは専門的な看護の授業が増え、初めて1人で患者さんを受け持ち、必要とされる看護を深く考える貴重な経験ができました。その際に「あなたに会えたことは、一期一会だと思って頑張るね」と言ってもらえた事が励みになっています。勉強や部活やアルバイトを通して、夢に向かって充実した日々を送っています！

安藤 もも花さん
保健学科 看護学専攻4年 (兵庫県出身)

現在、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、自宅でWEB講義を受けています。早く、教室でみんな一緒に講義や演習ができるのを待っています。2年生になると専門科目が多くなります。立派な医療従事者になるため、頑張っています!!!

保健学科 看護学専攻2年 (左から兵庫県出身、鳥根県出身)



4年次は、グループに分かれての臨床実習や配属された研究室で興味・関心を持つテーマについて課題研究に取り組んでいます。今年は、オンラインで研究室のメンバーが繋がるゼミを行っています。また、国家試験に向けての勉強や就職活動なども並行しながら、それぞれが目標に向かって日々努力しています。これまでの実習や学生生活での経験をもとに、先生方のご支援のもと仲間たちと支え合い学びを深め、目標とする専門職になるため毎日楽しみながら過ごしています。

保健学科 看護学専攻4年 (左上から時計回りに鳥根県出身・鳥取県出身・兵庫県出身・鳥取県出身)



MESSAGE

検査技術科学専攻主任 二宮 治明

Haruaki Ninomiya



検査技術科学専攻では、臨床検査技師の養成課程を通して生命倫理を尊重し科学的な視点で物事を判断できる人材を育成しています。授業・実習だけでなく学生同士の自主的活動によって、医療人としての心構えやコミュニケーション能力、協調性などを身につけることができます。決められた授業だけでなく、在学中の研究室配属によって研究指導を行っています。学生が医療人として成長することを心から願い、保健・医療の領域における科学的発展に寄与できる研究者・職業人を育てることを目標に、教職員一同、全力で取り組んでおります。

実習の様子



分析検査学実習

血液、尿など生体試料中には、蛋白質、酵素、脂質など様々な成分が含まれています。それぞれの成分の特徴や働きを理解し、分析技術を習得します。



人体組織学実習

組織学は、人体の構造を細胞レベルで理解する技術です。人体の各臓器から作成した組織標本を顕微鏡下で観察し、正常な微細構造について学びます。



病理組織細胞学実習

検体処理、標本作製および染色技術の習得と、正しい標本観察を目的に学びます。



採血実習

採血も臨床検査技師の大切な仕事です。安全な採血を行えるように、シミュレーターや模擬患者さんでしっかりと練習し、知識と技術を十分に習得します。



超音波検査実習

超音波検査は、体内の臓器を画像化して調べる検査です。診断装置に関する知識はもちろん、解剖学の知識も必要であり、熟練が必要な検査です。



病原体検査学実習

滅菌法、無菌操作など微生物を取り扱う際に必要な基本操作の習得と、細菌の培養や鑑別、同定法などを学びます。

取得可能資格 臨床検査技師

Curriculum

※1年次は鳥取キャンパス(鳥取市)で他学部の学生とともに学びます。
 ※1~3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。
 ※2年次以降は米子キャンパス(米子市)で専門基礎科目、専門科目を学びます。
 ※医学部附属病院を中心として総合的な実習の体制がとられています。
 ※医学科・生命科学科との密接な連携のもとで教育・研究を行います。

1年	2年	3年	4年
人体の構造と機能	病気と病理	情報科学概論	人類遺伝学
健康と生体情報	病気と微生物	人体組織学/実習	老年医学
栄養と代謝	くすりと作用	生理情報検査学/実習	がんのメカニズムと治療
人間発達と健康論	疾病論	医用工学/実習	医療データ解析学
	細胞と情報伝達	管理システム学概論	関係法規
	生命維持と免疫	検査機器論	環境衛生学
	生物と環境	機器管理演習	環境衛生学実習
	国際保健医療論	検査学概論	医療情報システム学
	コミュニケーション法	病理検査学/実習	臨床病理学概論
	保健福祉行政論	検体検査学/実習	放射線同位元素検査技術学
	心の病	微生物検査学/実習	遺伝子診断学
	周産期医学	基礎免疫・輸血学	画像診断学
	分析検査学/実習	情報科学演習	医療コミュニケーション
	※専門基礎科目を中心に身体への仕組み、病気の成り立ち、治療法などを学びます。		特別講義1(予防検査学)
			特別講義2(バイオフィーマティクス)
			特別講義3(廃棄物処理論)
			※臨床実習による高い実践能力を身につけます。課題研究では多彩なテーマから選択し、取り組みます。

卒業後の進路

(主な就職先・進学先：平成29~令和元年度)

高い就職率!!

平成29年~令和元年度就職率: **98.2%** (国家試験不合格者を除く)
 卒業生の多くが出身地で就職しています!

近畿

松阪中央総合病院
 松阪総合病院
 野江病院
 国立病院機構近畿グループ
 大阪赤十字病院
 大阪府立病院機構
 大阪大学医学部附属病院
 関西医科大学附属病院
 河内総合病院
 堺市立病院機構
 和泉市立総合医療センター

京都市立病院機構
 京都桂病院
 ひだか病院
 西宮渡辺心臓脳・血管センター
 宝塚市立病院
 公立豊岡病院組合立豊岡病院
 姫路赤十字病院
 北播磨総合医療センター
 加古川市民病院機構
 IHI播磨病院

山陰

鳥取県保健事業団
 鳥取市立病院
 鳥取赤十字病院
 鳥取大学医学部附属病院
 境港総合病院
 出雲市立総合医療センター
 安来第一病院
 鳥根県立中央病院
 雲南市立病院

進学先

鳥取大学大学院医学系研究科
 医学専攻
 岡山大学大学院保健学研究科
 検査技術科学分野



山陽・山口

岡山市立市民病院
 心臓病センター榊原病院
 しげい病院
 倉敷平成病院
 倉敷成人病センター
 倉敷中央病院
 福山市医師会
 福山臨床検査センター
 日本鋼管福山病院
 原田病院
 呉共済病院
 国立病院機構中国四国グループ
 萩市民病院

中部

稲沢市民病院
 岐阜県総合医療センター

四国

高松赤十字病院
 国立病院機構中国四国グループ
 三豊総合病院
 田岡病院

九州

飯塚病院

卒業生の声



皆さんは臨床検査技師という職業をご存知ですか。血液や尿などの検体を取り扱って検査したり、心電図や脳波、超音波などの生理機能検査を行ったり、病院によっては採血も行ったりしています。新型コロナウイルス感染症のPCR検査も、私たち臨床検査技師が主に行っています。私は現在、生理機能検査を担当しています。特に心臓の超音波を勉強中です。超音波の結果で治療の方針や手術の適応が決まったりするため責任は大きいですが、自分の知識がどんどん増えていくのがとても楽しく、やりがいのある仕事です。

勤務先：鳥取大学医学部附属病院
田住 優也 さん
 (保健学科 検査技術科学専攻15期生)

在学生の声



1年次では主に医療の基本を学び、2年次からは専門科目が増えるため、より詳しく臨床検査について学ぶことができます。また、実習も増えクラスメイトとコミュニケーションをとる機会も多くなるため、互いに高め合いながらさらに実践的に知識を身につけることができます。勉強だけでなく、部活動やアルバイトにも励みながら毎日楽しく充実した大学生活を過ごしています。

3年前期	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限	環境衛生学	医療英語Ⅰ	医療情報システム学	病態分析検査学実習Ⅰ	病態血液学
2時限	病態分析検査学	病態免疫血清検査学	人類遺伝学	病態分析検査学実習Ⅰ	病理組織細胞学実習Ⅰ
3時限	病原体検査学	病態生理情報検査学			
4時限					
放課後	アルバイト	部活動	アルバイト	部活動	アルバイト

3年後期	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限		医療英語Ⅱ	死生学	病態生理情報検査学実習Ⅰ	医療データ解析学
2時限	臨床病理学概論	病態免疫血清検査学実習Ⅰ	病原寄生虫学演習	生命工学概論	がんのメカニズムと治療
3時限	環境衛生学実習		放射性同位元素検査技術学	病態生理情報検査学実習Ⅰ	病態血液学実習Ⅰ
4時限					
放課後	アルバイト	部活動	アルバイト	部活動	アルバイト

田仲 美希 さん 保健学科 検査技術科学専攻3年(鳥取県出身)

学生達の生活紹介

鳥取キャンパスでは他学部との交流が多いため、他学部にも友達ができ充実した1年を過ごすことができます。また1年次は時間に余裕があるため、勉強と両立してサークル活動やアルバイトに勤しむなど、ある程度自分の好きなことをして過ごせる学年です。



保健学科 検査技術科学専攻1年 (左から鳥取県出身、鳥取県出身、兵庫県出身)

3年次では、これまで座学で学んできたことを実習する機会が多くなります。心電図検査や超音波検査などの生理機能検査実習、血液学分野における採血実習など臨床検査技師として現場で活躍するための基本的な技術を習得しています。



保健学科 検査技術科学専攻3年 (左から兵庫県出身、鹿児島県出身、静岡県出身、鳥取県出身、岡山県出身)

基礎看護学講座

看護学専攻

未来につなげる“看護の原理”



教授

深田 美香

ナイチンゲールは、著書“Notes on Nursing: what it is, and what it is not”に、時代が変わっても人間の生活がある限り変わらない“看護の原理”を記しました。私たちは、「生命力の消耗を最小にするように、持てる力を十分に活用できるように生活のあり方を整える」という“看護の原理”を使い、論理的に思考し確かな技術を用いて、相手のニーズに応じた看護を実践します。看護の善し悪しを判断する「看護のものさし」を使い、心からの関心を相手に向け続けています。看護の核となる実践能力には、ニーズをとらえる力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力があります。どのように看護学を学び、どのように看護の実践経験を積み重ねていけば、この能力を身につけられるかという問いに答えるために、日々、教育・研究に取り組んでいます。一緒に、新しい看護を創造し、看護学の知識を生み出していきたいですね。

成人・老人看護学講座

看護学専攻

山陰で最初のがん看護専門看護師の育成校



教授

中條 雅美

成人・老人看護学講座で成人看護を担当しています。成人看護学では、成人期にあり病とともに生きている人の病態や療養生活についての理解を深め、それに対する看護について学びます。学部や大学院では、手術看護、救急看護、慢性看護、がん看護における学習や研究を行っています。特に大学院においては、大学院生の研究指導だけでなく、山陰で唯一のがん看護専門看護師の育成も担当しています。現在行っている研究は、成人看護学の中でもがん看護や糖尿病看護に関することです。実際に乳がんや糖尿病とともに生きる人にインタビューをして、その方にしかわからない体験を教えてください、どのような看護をしていったらよいかを追求しています。成人期は対象となる年齢の幅が広く、様々なライフサイクルにあり多様なライフスタイルを持っておられます。実際に体験した人でないとなかなかおっしゃられる方も多く、その通りだと教わることも多いです。

母性・小児家族看護学講座

看護学専攻

次世代に繋げる専門職：助産師
新たな命・こども・女性を支援する



教授

鈴木 康江

本学では学部で助産師養成の教育・研究・社会的貢献をしています。助産師は女性や家族に寄り添い生涯にわたる女性の健康を支える医療専門職です。少子化が進む中、支援を必要としている女性は増える傾向にあります。赤ちゃんが授けられない、予期しない・望まない妊娠、不安な妊娠生活、育児負担・困難感、産後の鬱、思春期・更年期・老年期の性の課題など、抱える問題は沢山あります。これらの解決をめざし、日々、教育・研究に取り組んでいます。現在、助産学分野では思春期の青少年たちへのピアカウンセリング支援、全ての女性や赤ちゃんが出産前から切れ目なく助産師によるケアを受けることができる社会を目指した助産師志向支援活動、臨床助産師が常に最新の知識・技術を学ぶことができる教育活動などの社会支援活動もしています。将来を担う子ども達、産み育む母親・女性のための、次世代へと命と健康を繋げる医療専門職になりませんか。

地域・精神看護学講座

看護学専攻

てんかんのある人を
支えるための研究



教授

吉岡 伸一

てんかんという病気を聞いたことがありますか？てんかんという言葉は知っていても、てんかんのある人がどの位いるのか、どのような病気なのか、どのような対応が必要かについては、十分に知られていません。てんかんをもつ人は100人に1人程度(有病率)で、乳幼児から高齢者まで幅広く発症する神経疾患のひとつです。しかし、日本では有病率などの疫学研究は十分ではありません。そこで、山陰地区でのてんかんをもつ人の疫学調査や高齢者施設等でのてんかんをもつ人の実態調査を行ってきました。また、てんかんをもつ人を支える、医師、看護福祉関係職種、訪問看護師、訪問介護士、さらに大学教員や学生を対象に、てんかんに対する知識、経験、態度、対応状況などの研究も行ってきました。てんかんをもつ人を支えるためには、学生をはじめ全ての人があてんかんを正しく理解することが大切です。正しい知識の普及啓発のため日々研究に取り組んでいます。

生体制御学講座

検査技術科学専攻

認知症予防の最先端研究と
認定認知症領域検査技師の養成



教授

浦上 克哉

認知症は世界で3秒に1人の割合で発症してきており、その対策は世界的な課題です。増加の一途をたどる認知症への予防は急務であり科学的エビデンスの創出が我々の使命です。私の研究室では、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)を早期発見するための検査法と予防ツールの開発を行っています。特許を取得し実用化に成功したもののひとつが「物忘れ相談プログラム」というスクリーニング機器です。3分以内で物忘れチェックができ、全国で活用されています。認知症医療の現場における課題は人材不足です。そこで、認知症医療に対応できる臨床検査技師の育成を行っています。大学院博士前期課程に「認知症予防学特論」、「認知症予防学演習」を学ぶことのできる本邦初の「認定認知症領域検査技師コース」が平成29年から開設され、今日までに6名の修了者が誕生しております。認知症予防を学び臨床の実践と研究を行い、世の中に貢献しませんか？

生体制御学講座

検査技術科学専攻

Niemann-Pick病C型
(NPC)の研究



教授

二宮 治明

NPCは脂質蓄積症のひとつで、致死性の遺伝性疾患です。ふたつの原因遺伝子は確定している、その遺伝子型と表現型については詳細な記載があります。しかし、基本的な問題の答えは謎のままです。まず、原因遺伝子がコードする蛋白質の機能はいったい何なのか。これらの欠損がどうして脂質の輸送障害を引き起こすのか。そして、なぜ神経細胞は死んでいくのか。遺伝性疾患の治療を考えると、遺伝子治療ないし幹細胞治療しかありえないというのはロジカルには正しい。残念ながら、これを持っていつになるかわからないというのが現実であり、そもそも可能なのかどうかも今の私にはわかりません。そういう状況下で、病態を理解することを目指しています。その過程で、すこしでも患児のbenefitになる情報が得られれば、と思います。

病態検査学講座

検査技術科学専攻

病態を可視化する



教授

北村 幸郷

病理検査には、生検による組織検査、細胞診による細胞検査、術中迅速検査、手術材料による病理検査などがあり、また病理解剖によって疾病の広がりや治療効果の検討がなされます。そのためには適切な検体処理、良好な標本作製および正確な染色技術、さらに細胞検査士の育成が必要であり、人材育成ならびにこれらの病理技術向上のための研究を行っています。古典的なHematoxylin-Eosin染色や一般的な特殊染色のみならず、免疫組織化学や電子顕微鏡による検査技術の向上はもちろんのこと、近年では分子生物学的手法を用いた分子病理学的検査技術が必要とされています。In Situ Hybridization、FISH、PCRなどは病理検査にも活用されており、これらを用いた検査技術の向上を目指して研究を進めています。

病態検査学講座

検査技術科学専攻

アイデアをカタチにする



教授

鯉岡 直人

病気の診断や患者さんの治療に多くの医療機器が使用されています。臨床検査学的に、新しい機能や工夫を追加したら患者さんにメリットが大きいと予想されるアイデアがあります。このような、アイデアを具体化する医工学分野の研究を行っています。例えば、自宅で長期間酸素吸入をしている患者さんの利便性を高めるため、酸素供給装置にインターネット回線を接続して重要な治療情報を医師、医療スタッフがいつでも確認できるシステムを企業と開発して実用化しました。これはInternet of Things (IoT)を応用した新しい医療機器です。医学的知識に加えて情報工学、物理学、数学を応用して医療機器を開発・実用化するためには、企業との共同研究が欠かせません。基礎研究とは違う実践的研究を通して得られた成果が臨床医学に還元されるように日々取り組んでいます。



ふれあい朝食会

大学入門ゼミ

教員との懇親会

オープンキャンパス

オープンキャンパス

国家試験壮行会

学園祭

卒業式

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

前期授業開始
全学合同入学式
(鳥取市)
ふれあい朝食会
(1年生)
大学入門ゼミ
(1年生)
教員との懇親会
(保健学科2年生)

慰霊祭
(医学科)
医学部1年次
スポーツ大会

鳥取大学開学記念日
(6月1日)

前期定期試験
オープンキャンパス

夏季休業
西日本医科学生
総合体育大会

動物慰霊祭

後期授業開始
オープンキャンパス

学園祭

冬季休業

後期定期試験

国家試験壮行会
(医学科・保健学科)
国家試験
(医学科・保健学科)
春季休業

医学部卒業式・謝恩会
進級生
オリエンテーション
(生命科学科・
保健学科新2年生)
白衣授与式
(医学科新5年生)

勉学だけでなく、
クラブ活動やサークル、アルバイトなど、
うまく両立しながら楽しい日々を送っています♪

鳥取大学イメージキャラクター とりりん



課外活動

体育系



合気道部/V-TEC Jr.(バレー)/弓道部/競技スキー部/剣道部/ゴルフ部/硬式庭球部/サーフィン部/
サイクリング部/サッカー部/柔道部/準硬式野球部/ソフトテニス部/女子バスケットボール部/女子
バレーボール部/女子フットサル部/水泳部/漕艇部/ダンス部/卓球部/男子バスケットボール部/男子
バレーボール部/男子フットサル部/バドミントン部/武産合気道部/ラグビー部/陸上競技部/駅伝部/
PORKS(軟式野球)/MONSTER BASH Jr(バスケットボール)/空手道部/L-sports Reasort/レジャー
サークル/ハンドボールサークル

文化系



アトリエ自由ノート(美術部系)/学生 ACLS(救命救急サークル)/カクテル部/華道部/ギターマンドリン部/
筋ジストロフィーボランティア部/軽音楽部/国際保健友の会ハクナマタタ/茶道部/サブカルチャー研究会/
室内管弦楽団/写真部/JAZZ研究会/しゅわっち(手話サークル)/将棋部/スプラウト(混声合唱団)/
大山家族(小児糖尿病患者支援活動)/地域医療研究部/パッチアダムスクラブ(小児科病棟交流活動)/
peer in heart(性教育サークル)/TC-SARCH/鳥取大学ぬいぐるみ病院/ルービックキューブサークル

学生生活サポート

保健管理センター、 学生支援センター、学生相談ルーム

身体に異常を感じたり、慢性疾患のある人、ケガをした人、「勉強に身が入らない」「大学生活になじめない」など、こころの悩みを持っている人も気軽に相談できます。



大学生協 食堂・ショップ

食堂は、平成27年にリニューアルオープンしました。学生の健康的な食生活を応援しています。安全な食材を利用しやすい価格で、栄養のバランスのとれたメニューを提供しています。ショップには文具や書籍、生活用品、お弁当などが揃っています。

食 堂 OPEN / 8:00 CLOSE / 19:30
ショップ OPEN / 8:20 CLOSE / 18:00



就職支援室

キャリア相談員を配置して履歴書の書き方、自己分析のやり方、面接対策など相談を受け付けています。また、身近な就職担当教員に相談することもできます。

医学図書館

医学書他約15万冊の図書その他、電子書籍、電子ジャーナル、学術文献データベースなど、インターネットでアクセスできる電子リソースも充実しています。



OPEN / 8:40 CLOSE / 23:00 (授業期間、試験期間の平日)

- 1F ブラウジングコーナー 雑誌、新聞があります。
- 2F 閲覧室・パソコンルーム 試験シーズンは満席になるほど多くの学生が使用しています。
- 3F グループ学習室 グループで利用できる小部屋を貸し出しています。



鳥取大学医学部附属病院は、40診療科、約1,850人のスタッフと697の病床数を有しており、特定機能病院として高度先進医療を安心安全に提供すること、および医療人の育成を行っています。一人一人の能力が発揮できる組織づくりを通じ、地域医療への貢献を目指しています。

基本理念
健康の喜びの共有

私たちは医療の実践、医学の教育・研究を推進し、地域の人々と健康の喜びを共有します。



高度医療の提供
令和元年6月
累計症例数が
1,000例に達しました

ロボット支援手術
内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」導入をきっかけに、診療科の垣根をなくした「低侵襲外科センター」を開設。平成31年1月より、ダビンチXIとXの2台体制となり、ロボット支援手術の更なる推進と、センターを通じた各職種のスームズな連携で安心安全な最新医療を提供しています。

2つの新しい心臓治療を施行

- 「ダビンチ」を用いた心臓僧帽弁形成術 (中国地方初)
- 左心耳閉鎖システムを用いたカテーテル治療 (山陰地方初)



組織横断的な
チーム医療の実践

当院では、一人一人の患者さんに沿った適切な治療を効率的に行うために、診療科や部門の枠組みを超えたチーム医療に取り組んでいます。



地域医療の「最後の砦」を担う

平成30年3月から当院を基地病院として、鳥取県ドクターヘリ事業が開始されました。迅速な救急医療を提供し、救急医療体制の充実に貢献します。



2021年度 募集人員

学科・専攻	入学定員	募集人員					
		前期日程		後期日程		私費外国人留学生	
		特別選抜					
		学校推薦型選抜II		社会人			
医学科	104	一般枠	58	—	25	—	若干人
		鳥取県枠	14				
		兵庫県枠	2				
		鳥根県枠	5				
生命科学科	40	30	5	5			
保健学科	看護学専攻	80	45	5	30	若干人	
	検査技術科学専攻	40	22	5	13		

2021年度 試験内容

学科・専攻	学力検査等の区分	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科	科目名等
医学科	前期日程	国語	国語(必須)	数学	数I・数II・数III・数A・数B
		地歴 公民 数学	世B、日B、地理B、倫・政経 数I・数A(必須) 数II・数B(必須) 物理、化学、生物 から2	理科	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 } から2
	学校推薦型選抜II	外国語	英、独、仏 から1	外国語 面接	英語 面接
生命科学科	前期日程	国語	国語(必須)	数学	数I・数II・数III・数A・数B
		地歴 公民 数学	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経 数I・数A(必須) 数II・数B(必須) 物理、化学、生物 から2	理科	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 } から2
	後期日程	理科	物理、化学、生物 から2	外国語	英語 面接
	学校推薦型選抜II	外国語	英、独、仏 から1	その他	面接
保健学科	前期日程	国語	国語(必須)	外国語	英語
		地歴 公民 数学 理科	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経 数I・数A、数II、数B、簿・会、情報 から1 物理基礎、化学基礎、生物基礎 から2 又は物理、化学、生物 から2	その他	小論文 面接
	学校推薦型選抜II	外国語	英、独、仏 から1	その他	小論文 面接
検査技術科学専攻	前期日程	国語	国語(必須)	数学	数I・数II・数III・数A・数B } 1教科
		地歴 公民 数学 理科	世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経 数I・数A(必須) 数II・数B(必須) 物理、化学、生物 から2	外国語	英語 } 1教科 英語 } 選択
	後期日程	理科	物理、化学、生物 から2	その他	小論文 面接
	学校推薦型選抜II	外国語	英、独、仏 から1	その他	小論文 面接

2021年度 鳥取大学医学部入学者選抜試験日程一覧

試験日	合格発表		
	試験日	合格発表	
大学入学 共通テスト (試験日) 1月16日(土) 1月17日(日)	一般選抜〔前期日程〕	2月25日(木)	3月6日(土)
	一般選抜〔後期日程〕 (生命科学科・保健学科)	2月26日(金)*	3月6日(土)
	学校推薦型選抜II (医学科・保健学科)	3月12日(金)	3月21日(日)
	学校推薦型選抜II (生命科学科)	12月5日(土)	2月10日(水)
	社会人特別選抜(保健学科)	2月6日(土)	2月10日(水)
	私費外国人留学生選抜	12月5日(土)	3月6日(土)
		2月25日(木)	3月6日(土)

詳細はこちらから

令和3年度入学者選抜概要、鳥取大学ホームページ入学試験情報をご確認ください。



ホームページアドレス

http://www.admissions.adm.tottori-u.ac.jp/